

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

令和 5 年 10 月 5 日

開設者名 国立大学法人 長崎大学長 永安 武

番 長大病総1267 号

長崎大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒852-8521 長崎市文教町1-14
氏名	国立大学法人 長崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

長崎大学病院

3 所在の場所

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号
電話 (095)819-7200

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
○	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
内分泌内科及び代謝内科については内分泌・代謝内科で対応している。 アレルギー疾患については皮膚科等で対応している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
乳腺外科及び内分泌外科については、乳腺・内分泌外科で対応している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科		6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	泌尿器科・腎移植外科	2	形成外科	3	内分泌・代謝内科	4	乳腺・内分泌外科	5	病理診断科
6	移植外科	7	脳神経内科	8	胃・食道外科	9	大腸・肛門外科	10	肝胆膵外科・肝移植外科
11	リハビリテーション科	12	臨床検査科	13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
39	2	6	0	827	874

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	558	30	570.0
歯科医師	112	46	151.4
薬剤師	64	0	64
保健師	0	0	0
助産師	44	0	44
看護師	913	14	923.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	17	0	17
管理栄養士	13	0	13

職種	員数
看護補助者	60
理学療法士	26
作業療法士	10
視能訓練士	9
義肢装具士	0
臨床工学士	31
栄養士	2
歯科技工士	5
診療放射線技師	47

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	90
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	12
その他の技術員	36
事務職員	367
その他の職員	6

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	85	眼科専門医	14
外科専門医	49	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	9	放射線科専門医	22
小児科専門医	27	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	10	整形外科専門医	23
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	29
産婦人科専門医	20	救急科専門医	17
		合計	336

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (中尾 一彦) 任命年月日 平成 31 年 4 月 1 日

- ・安全管理部長(平成31年1月1日～平成31年3月31日)
- ・医療安全管理委員会(医療安全に関する委員会)委員長(平成31年4月1日～継続中)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	609.1 人	9.8 人	618.9 人
1日当たり平均外来患者数	1264.9 人	339.6 人	1604.5 人
1日当たり平均調剤数	2,984		剤
必要医師数	139.383		人
必要歯科医師数	18.205		人
必要薬剤師数	37.300		人
必要(准)看護師数	367.833		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	405.55 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	20 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	498.2	m ²	病床数	50 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	136.1 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	243.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動生化学分析装置、血液ガス分析装置、全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、全自動キャピラリー電気泳動装置、全自動免疫分析装置、全自動血液凝固測定装置、多項目自動血球分析装置、塗抹標本作成装置 等			
細菌検査室	185 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物検体処理システム、質量分析装置、全自動血液培養測定装置、全自動同定感受性検査装置、安全キャビネット、光学顕微鏡 等			
病理検査室	404 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 密閉式自動包埋装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、局所廃棄装置切り出し台、局所廃棄装置付検体保管庫、安全キャビネット、バーチャルスライド、スマートセクション等			
病理解剖室	63.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、高圧滅菌装置、ホルマリン希釈装置、臓器乾燥装置、遺体保存冷蔵庫、教育用カメラシステム等			
研究室	3,343 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 安全キャビネット、電子顕微鏡、自動血液培養装置、質量分析装置等			
講義室	561 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	420 人
図書室	142 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	14,618 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		85.7	%	逆紹介率		55.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数				14,695	人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数				10,706	人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数				1,874	人	
	D: 初診の患者の数				19,324	人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
吉村 麻里子	佐賀大学医学部附属病院 医療安全管理室 特任教授	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
川添 志	山下・川添総合法律事務所 弁護士		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
飯田 由紀子			医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページにて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	1
先進医療の種類合計数	1
扱い患者数の合計(人)	1

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪舞を超えるものに限る。)	1人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	2人
テネクテプラーゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類の合計数	4
取扱い患者数の合計(人)	3

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	0
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	71	バッド・キアリ症候群	3
2	筋萎縮性側索硬化症	12	72	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	53
3	脊髄性筋萎縮症	2	73	原発性硬化性胆管炎	5
4	進行性核上性麻痺	2	74	自己免疫性肝炎	9
5	パーキンソン病	54	75	クローン病	147
6	大脳皮質基底核変性症	2	76	潰瘍性大腸炎	208
7	シャルコー・マリー・トウス病	1	77	好酸球性消化管疾患	10
8	重症筋無力症	83	78	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	54	79	クリオピリン関連周期熱症候群	2
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	12	80	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	4
11	多系統萎縮症	11	81	TNF受容体関連周期性症候群	2
12	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	24	82	先天性ミオパチー	1
13	ライソゾーム病	7	83	筋ジストロフィー	6
14	副腎白質ジストロフィー	2	84	アトピー性脊髄炎	1
15	ミトコンドリア病	8	85	脊髄空洞症	2
16	もやもや病	72	86	脊髄髄膜瘤	2
17	プリオン病	1	87	遺伝性ジストニア	1
18	進行性多巣性白質脳症	1	88	前頭側頭葉変性症	2
19	HTLV-1関連脊髄症	7	89	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	3
20	全身性アミロイドーシス	48	90	レノックス・ガストー症候群	2
21	神経線維腫症	23	91	ウェスト症候群	1
22	天疱瘡	13	92	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
23	表皮水疱症	4	93	スタージ・ウェーバー症候群	1
24	膿疱性乾癬(汎発型)	7	94	結節性硬化症	1
25	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	95	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
26	高安動脈炎	34	96	特発性後天性全身性無汗症	7
27	巨細胞性動脈炎	10	97	弾性線維性仮性黄色腫	8
28	結節性多発動脈炎	16	98	マルファン症候群	8
29	顕微鏡的多発血管炎	51	99	ウィルソン病	4
30	多発血管炎性肉芽腫症	22	100	モワット・ウィルソン症候群	1
31	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	21	101	アペール症候群	1
32	悪性関節リウマチ	32	102	ウェルナー症候群	2
33	パージャー病	1	103	ヌーナン症候群	1
34	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	104	修正大血管転位症	1
35	全身性エリテマトーデス	294	105	単心室症	1
36	皮膚筋炎／多発性筋炎	95	106	三尖弁閉鎖症	2
37	全身性強皮症	125	107	ファロー四徴症	2
38	混合性結合組織病	56	108	アルポート症候群	2
39	シェーグレン症候群	46	109	急速進行性糸球体腎炎	2
40	成人スチル病	14	110	一次性ネフローゼ症候群	28
41	再発性多発軟骨炎	5	111	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	4
42	ベーチェット病	63	112	紫斑病性腎炎	4
43	特発性拡張型心筋症	68	113	間質性膀胱炎(ハンナ型)	13
44	肥大型心筋症	39	114	オスラー病	5
45	再生不良性貧血	26	115	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2
46	自己免疫性溶血性貧血	4	116	副甲状腺機能低下症	1
47	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	117	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5
48	特発性血小板減少性紫斑病	19	118	フェニルケトン尿症	3
49	血栓性血小板減少性紫斑病	1	119	肝型糖原病	2
50	原発性免疫不全症候群	12	120	脳腫黄色腫症	1
51	IgA 腎症	57	121	脂肪萎縮症	1
52	多発性嚢胞腎	24	122	家族性地中海熱	33
53	黄色靱帯骨化症	14	123	強直性脊椎炎	24
54	後縦靱帯骨化症	62	124	軟骨無形成症	1
55	広範脊柱管狭窄症	5	125	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
56	特発性大腿骨頭壊死症	51	126	後天性赤芽球癆	5
57	下垂体性ADH分泌異常症	17	127	クロンカイト・カナダ症候群	1
58	下垂体性TSH分泌亢進症	2	128	総排泄腔遺残	1
59	下垂体性PRL分泌亢進症	8	129	胆道閉鎖症	6
60	クッシング病	6	130	IgG4関連疾患	20
61	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13	131	黄斑ジストロフィー	1
62	下垂体前葉機能低下症	46	132	好酸球性副鼻腔炎	20
63	家族性高コレステロール血症(ホモ接合	1	133	シトリン欠損症	1
64	先天性副腎皮質酵素欠損症	2	134	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	4
65	サルコイドーシス	63	135	無虹彩症	2
66	特発性間質性肺炎	66	136	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	1
67	肺動脈性肺高血圧症	29	137	特発性多中心性キャッスルマン病	18
68	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	20			
69	リンパ脈管筋腫症	10			
70	網膜色素変性症	2			
(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。				疾患数	137
				総合計患者数(人)	2739

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・精神病棟入院時医学管理加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・精神科身体合併症管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・精神科リエゾンチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・栄養サポートチーム加算
・特定機能病院入院基本料（一般病棟 7対1）	・医療安全対策加算1
・特定機能病院入院基本料（結核病棟 7対1）	・感染対策向上加算1
・特定機能病院入院基本料（精神病棟 13対1）	・指導強化加算
・入院栄養管理体制加算	・患者サポート体制充実加算
・救急医療管理加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・診療録管理体制加算1	・ハイリスク分娩管理加算
・医師事務作業補助体制加算1（20対1）	・呼吸ケアチーム加算
・急性期看護補助体制加算（25対1・看護補助者5割未満）	・後発医薬品使用体制加算2
・夜間100対1急性期看護補助体制加算（急性期看護補助体制加算）	・病棟薬剤業務実施加算1
・夜間看護体制加算（急性期看護補助体制加算）	・病棟薬剤業務実施加算2
・看護補助体制充実加算（急性期看護補助体制加算）	・データ提出加算（2）
・看護職員夜間配置加算（12対1配置加算1）	・入退院支援加算（1）
・看護補助加算2（精神病棟 50対1）	・入退院支援加算（3）
・看護補助体制充実加算（看護補助加算）	・入院時支援加算（入退院支援加算）
・療養環境加算	・認知症ケア加算1
・重症者等療養環境特別加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算1	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算2	・精神科急性期医師配置加算
・放射線治療病室管理加算1（治療用放射性同位元素による場合）	・地域歯科診療支援病院入院加算
・放射線治療病室管理加算2（密封小線源による治療）	・排尿自立支援加算
・緩和ケア診療加算	・地域医療体制確保加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

[illegible]

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・外来腫瘍化学療法診療料1
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・外来腫瘍化学療法診療料の注6に規定する連携充実加算
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ニコチン依存症管理料
・慢性維持透析患者外来医学管理料の注3の加算 腎代替療法実績加算	・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
・喘息治療管理料	・がん治療連携計画策定料
・糖尿病合併症管理料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・外来排尿自立指導料
・がん患者指導管理料イ	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん患者指導管理料ロ	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん患者指導管理料ハ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ニ	・検査・画像情報提供加算／電子的診療情報評価料
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料1
・移植後患者指導管理料(臓器移植後の場合)	・医療機器安全管理料2
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	・がんゲノムプロファイリング評価提供料
・糖尿病透析予防指導管理料	・禁煙治療補助システム指導管理加算
・小児運動器疾患指導管理料	・禁煙治療補助システム指導管理加算 禁煙治療補助システム加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅療養後方支援病院
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・一般不妊治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・生殖補助医療管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料1	・遺伝学的検査
・二次性骨折予防継続管理料3	・染色体検査 流産検体を用いた絨毛染色体検査
・下肢創傷処置管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・院内トリアージ実施料	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・外来放射線照射診療料	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がんゲノムプロファイリング検査	・CT撮影／MRI撮影
・先天性代謝異常症検査	・冠動脈CT撮影加算
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・外傷全身CT加算
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)／抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・大腸CT撮影加算
・HPV核酸検出	・心臓MRI撮影加算
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・乳房MRI撮影加算
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・小児鎮静下MRI撮影加算
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・頭部MRI撮影加算
・国際標準検査管理加算	・画像診断管理加算3
・遺伝カウンセリング加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・無菌製剤処理料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・外来化学療法加算1
・時間内歩行試験／シャトルウォーキングテスト	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・胎児心エコー法	・(心大血管疾患リハビリテーション初期加算)
・ヘッドアップティルト試験	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・皮下連続式グルコース測定	・(脳血管疾患等リハビリテーション初期加算)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・神経学的検査	・(運動器リハビリテーション初期加算)
・補聴器適合検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・(呼吸器リハビリテーション初期加算)
・小児食物アレルギー負荷検査	・がん患者リハビリテーション料
・内服・点滴誘発試験	・経頭蓋磁気刺激療法
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	・精神科作業療法
・経気管支凍結生検法	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・医療保護入院等診療料

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・多血小板血漿処置	・仙骨神経刺激装置植込術／仙骨刺激装置交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・角結膜悪性腫瘍切除術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・角膜移植術(内皮移植加算)
・人工腎臓	・羊膜移植術
・導入期加算3	・緑内障手術 眼内法
・透析液水質確保加算	・緑内障手術 その他のもの
・慢性維持透析濾過加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・緑内障手術 濾過胞再建術(needle法)
・処置の休日加算1／時間外加算1／深夜加算1	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・網膜再建術
・自家脂肪注入	・植込型骨導補聴器植込術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・耳管用補綴材挿入術
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・人工中耳植込術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・人工中耳用材料
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・人工内耳植込術
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・植込型骨導補聴器移植術／植込型骨導補聴器交換術
・椎間板内酵素注入療法	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・内視鏡下脳腫瘍生検術	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)
・内視鏡下脳腫瘍摘出術	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)/下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)/乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)/脳刺激装置交換術	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 4気管支形成を伴う肺切除	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・同種死体肺移植術	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・生体部分肺移植術	・腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)／内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術／胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)／小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)／結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)／腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)／尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)／膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)／腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・内視鏡下筋層切開術	・腹腔鏡下胃全摘術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・胸腔鏡下弁形成術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・胸腔鏡下弁置換術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経皮的中心隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下肝切除術
・ペースメーカー移植術／ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術／ペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・生体部分肝移植術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)／両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・同種死体肝移植術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)／植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)／両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・同種死体腓移植術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・同種死体腎移植術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・同種死体小腸移植術	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(定位前方切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下小切開腎部分切除術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下小切開腎摘出術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・体外式膜型人工肺管理料
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・輸血管理料Ⅰ
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・自己生体組織接着剤作成術
・同種死体腎移植術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・生体腎移植術	・同種クリオプレシピテート作製術
・膀胱水圧拡張術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ハンナ型間質性膀胱炎手術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・手術の休日加算1／時間外加算1／深夜加算1
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。))に掲げる手術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)
・埋没陰茎手術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・陰嚢水腫手術 鼠径部切開によるもの	・周術期薬剤管理加算(麻酔管理料(Ⅰ))
・陰嚢水腫手術 その他	・麻酔管理料(Ⅱ)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・周術期薬剤管理加算(麻酔管理料(Ⅱ))	・歯科画像診断管理加算1
・放射線治療専任加算	・歯科画像診断管理加算2
・外来放射線治療加算	・手術用顕微鏡加算
・高エネルギー放射線治療	・歯根端切除手術の注3
・1回線量増加加算(全乳房照射)	・口腔粘膜処置
・強度変調放射線治療(IMRT)	・歯周組織再生誘導手術
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)/下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・体外照射呼吸性移動対策加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・1回線量増加加算(前立腺照射)	・レーザー機器加算
・定位放射線治療	・歯科麻酔管理料
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・周術期薬剤管理加算(歯科麻酔管理料)
・デジタル病理画像による病理診断	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・病理診断管理加算2	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・保険医療機関間の連携による病理診断	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・歯科矯正診断料
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・歯科治療時医療管理料	・口腔病理診断管理加算2
・歯科訪問診療料の注13に規定する基準	・入院時食事療養(Ⅰ)・入院時生活療養費(Ⅰ)
・口腔細菌定量検査	・
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ/ロ	・
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ/ロ	・
・咀嚼能力検査	・
・咬合圧検査	・
・精密触覚機能検査	・
・睡眠時歯科筋電図検査	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・流産検体を用いた染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	117	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	26
	剖検率(%)	8%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ゲーム依存の社会浸透を防げるか？統合的科学的評価と早期依存対策に向けた基盤研究	大山 要	薬剤部	12,480,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
新規HTLV-1クロナリティ検査法の確立・ATL発症を捉える検査	長谷川 寛雄	検査部	4,290,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
単球・マクロファージおよびミクログリアの動態からみた中枢神経障害の病態解析	田崎 修	高度救命救急センター	3,770,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
灌流型3次元血液脳関門モデルを用いた中枢神経系疾患治療薬の開発	諸藤 陽一	脳神経外科	650,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
共生細菌の糖利用競争力を利用した耐性菌制御法の構築	村田 美香	医療技術部 臨床検査部門 検査部	390,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
アミノ酸固定化カラムと神経筋接合部に対する病原性自己抗体	吉村 俊祐	脳神経内科	260,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
HTLV-1の自己抗体産生系やThサブセットに及ぼす影響	清水 俊匡	臨床研究センター 支援ユニット	195,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
ホワイトボックス型AIによる睡眠データからの不顕性誤嚥群検出とそのメカニズム解明	玉田 泰嗣	特殊歯科総合診療部	130,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
ホワイトボックス型AIによる睡眠データからの不顕性誤嚥群検出とそのメカニズム解明	土井 めぐみ	看護部	4,290,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
多機能性経肺投与型ナノ微粒子を基盤とした難治性肺癌に対する遺伝子・核酸医薬開発	兒玉 幸修	薬剤部	1,300,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
生体外MRIで作成した高分解能定量的磁化率マップによる動脈硬化性プラーク成分解析	石丸 英樹	放射線科	780,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
発汗障害解明に向けた汗腺の上皮間葉転換分子動態の解析	小池 雄太	皮膚科・アレルギー科	910,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
重症患者における小腸粘膜細胞傷害 ー発生メカニズムの解明と新規治療戦略の構築ー	関野 元裕	集中治療部	1,170,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
長時間の高濃度酸素吸入が幹細胞の動員と臓器虚血再灌流傷害に与える影響	稲富 千亜紀	麻酔科	1,430,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
SGLT2阻害薬による心筋虚血再灌流傷害に対する心保護効果の機序解明	柴田 伊津子	麻酔科	1,300,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
脳梗塞に対する幹細胞移植後の機能回復に関連する脳可塑性の解明	日宇 健	脳神経外科	1,430,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによる中枢神経疾患治療薬の開発	諸藤 陽一	脳神経外科	910,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
腎癌における逐次交換療法における効果予測モデルの構築:免疫複合体に注目した検討	光成 健輔	泌尿器科・腎移植外科	1,430,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
骨吸収抑制薬剤関連顎骨壊死に対するMRIの役割	佐々木 美穂	歯科放射線室	780,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
クリニカルパスの診療の質・安全及び病院経営に対する効果と適切な運用に関する研究	松本 武浩	メディカルサポートセンター・医療情報部	1,820,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
地域医療情報システムを用いた脳卒中・心疾患共通レジストリ構築と予後予測因子の探索	立石 洋平	脳神経内科	780,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
間質性肺疾患におけるフレイルの意義と神経筋電気刺激療法による介入戦略	花田 匡利	リハビリテーション部	910,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
好中球機能に着目したインフルエンザ関連細菌性肺炎の重症化機序解明	小佐井 康介	検査部	1,300,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
ウルトラファインバブル(ナノバブル)水を使用した創傷治癒促進戦略	大石 海道	腫瘍外科 (第一外科)	1,170,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
臍帯組織、臍帯血より抽出した細胞による人工気管作製による気道再生法の確立	小山 正三朗	腫瘍外科 (第一外科)	1,300,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
カーボンナノチューブを用いた自己細胞からなる人工管腔臓器の新たな作製技術の確立	町野 隆介	腫瘍外科学(第一外科)	1,300,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
悪性腸腰筋症候群の病態に筋紡錘が与える影響の解明と疼痛コントロール方法の検討	石井 浩二	麻酔科	910,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
カルシウムハンドリング制御による敗血症性心筋症の治療戦略	吉富 修	麻酔科	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
β-シクロデキストリンの包接および除放作用を応用した新規根管貼薬剤の開発	柳口 嘉治郎	保存・補綴歯科(虫歯治療室)	780,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
多施設共同研究による舌癌予防郭清の適応決定、バイオマーカー検索と組織バンクの構築	大鶴 光信	口腔顎顔面外科室(第一口腔外科)	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
ペムプロシズマブの治療効果予測に関する薬剤感受性機構の解明	鳴瀬 智史	口腔顎顔面外科室(第一口腔外科)	910,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
口腔がんの進展・転移における低酸素環境下でのcPLA2の働き	佛坂 由可	口腔顎顔面外科室(第一口腔外科)	1,040,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
がん化学療法誘発口腔粘膜炎に対するTNF-αアンタゴニストの効果についての検討	吉松 昌子	口腔管理センター	1,040,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
遠隔専門医療支援におけるサイバーコンサルテーションの有用性の検討	辻野 彰	脳神経内科	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
ICT連携の検査データ共有による糖尿病コントロールと歯周治療の数値的関係の解明	山下 利佳	口腔管理センター	1,690,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
PK/PDモデルを用いたVenetoclax最適投与法の確立	里 加代子	薬剤部	910,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
メタボローム解析を用いた肺動脈性肺高血圧症のバイオマーカーの網羅的探索	江口 正倫	循環器内科	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
腹膜線維化におけるマクロファージの極性の関与と新規治療法への応用	西野 友哉	腎臓内科	1,950,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
蛋白質メチル化酵素によるDNA修復機構を標的とした骨髄性腫瘍の新規治療法の開発	糸永 英弘	血液内科(原研内科)	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
好中球活性化に着目した強皮症合併肺高血圧症の早期診断・治療標的の包括的同定と展開	井川 敬	リウマチ・膠原病内科(第一内科)	2,080,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
細菌毒素の病原性における宿主因子GILTの働きに関する基礎および臨床研究	高橋 健介	高度救命救急センター(救急科)	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
乳癌における新規リンパ節転移診断キットの術前薬物療法症例への適応拡大	大坪 竜太	腫瘍外科(第1外科)	910,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
組織融合技術を用いた直腸吻合器の開発と縫合不全予防のマネージメントの確立	野中 隆	腫瘍外科(第一外科)	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
HLA-G誘導MSCによる局所免疫の抑制機序解析と免疫抑制性バイオマテリアル開発	田上 幸憲	腫瘍外科(第一外科)	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
肥太心のメタボローム解析と薬理学的コンディショニングにおけるNAD+合成系の制御	岩崎 直也	集中治療部(麻酔科)	1,950,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
トランスクリプトーム解析から展開するパターン認識を応用した病態解析法の基盤構築	田島 吾郎	高度救命救急センター	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
新規肺特異的疑似毛細血管壁モデルによるARDS病態解明と治療開発	田中 健之	感染制御教育センター	910,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
絨毛性疾患と関連するcircularRNAの同定とその臨床的意義に関する研究	長谷川 ゆり	産科婦人科	1,820,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
羊膜チューブキャッピングによる外傷性神経腫の制御	岩尾 敦彦	形成外科	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
臍帯由来間葉系幹細胞からの骨芽細胞分化におけるPrrx1の影響	江頭 寿洋	口腔管理センター	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
マイクロラーニングによる技術修得系研修のICT教育は対面での実技研修を超える	野上 朋幸	口腔管理センター	2,340,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
オンラインでの双方向性連携を活用した県内の医療施設での糖尿病治療標準化への有効性	鎌田 昭江(森内 昭江)	糖尿病診療支援センター(第一内科)	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
遠隔医療支援システムが医療種の業務負担に与える影響についての検討	田浦 直太	病床管理センター	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
人工呼吸器関連肺炎予防のためのハイブリッド口腔ケア材料の創製	中尾 紀子	口腔管理センター	1,950,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
チョコレートサインより早く窒息の予兆をAIが見極める食事モニターの開発	玉田 泰嗣	特殊歯科総合診療部	2,600,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
健診コホートのプロテオミクスと人工知能を基盤とする関節リウマチ個別化予防の構築	大山 要	薬剤部	5,850,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
原爆被爆者に見られるクローン性造血の解析	佐藤 信也	血液内科(原研内科)	1,430,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
生体における膝関節動態解析。健常、靱帯損傷、変形性関節症を含む。	中添 悠介	整形外科	130,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
臨床研究の質と研究者を取り巻く環境要因および心理的要因との関連	佐藤 俊太郎	臨床研究センター(臨床研究ユニット)	1,170,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
肝細胞癌分子標的薬治療の有害事象予測モデルを組み合わせた新規効果予測	佐々木 龍	消化器内科	1,040,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
プロサイモンシ α 由来ペプチドによるシスプラチン誘発性腎障害の新規予防法開発	鳥越 健太	腎臓内科	780,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
口腔内細菌叢とACPA成熟に着目したRA発症機序の解明	辻 良香	リウマチ・膠原病内科(第一内科)	260,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
T細胞に着目した特発性多中心性キャッスルマン病の病態解明	住吉 玲美	臨床研究センター	1,560,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
ボリュームカブノグラム分析を用いた肺内シャントの検討	荒木 寛	集中治療部	910,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞が敗血症における凝固線溶機能に与える影響:組織因子を指標とした検討	矢野 倫太郎	集中治療部	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
新開発シャツ型心電計の生理学的指標変動による原子力災害対応者の精神的負荷要因調査	井山 慶大	高度救命救急センター	650,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死の治療予後に寄与する骨膜反応の放射線学のおよび病理組織学的解析	林田 咲	口腔顎顔面外科室(第一口腔外科)	780,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
魚介アレルギー患者の血清IgEの測定とアレルゲンの同定	松本 舞	皮膚科・アレルギー科	1,950,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
被膜のない甲状腺濾胞性病変の意義:結節内結節病変に着目した分子病理学的解析	黒濱 大和	病理診断科・病理部	2,470,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
乳癌発癌機構におけるゲノム不安定性の53BP1を指標とした総合的解析	上木 望	地域病理診断支援センター	1,430,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
COVID-19患者における口腔内細菌叢の解析	太田 賢治	検査部	2,340,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
血中循環腫瘍DNAを用いた甲状腺乳頭癌の新たな治療戦略基盤の構築	田中 彩	腫瘍外科学(第一外科)	1,430,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
低分子化合物による肝前駆細胞を用いた肝加齢性変化の改善、若返り治療	原 貴信	移植・消化器外科(第二外科)	1,560,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
臍帯由来間葉系幹細胞誘導筋芽細胞を用いた革新的消化器手術合併症予防法の開発	小林 慎一郎	移植・消化器外科(第二外科)	1,950,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
マウス小腸移植モデルを用いた小腸移植後抗体関連型拒絶反応の発症機序と治療法の解明	松島 肇	移植・消化器外科(第二外科)	1,560,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
Ex vivo再生肺における生体内微小環境を再現した肺胞上皮構造の再構築	橋本 泰匡	腫瘍外科(第一外科)	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
ケミカルダイレクトリプログラミングによる肺胞上皮細胞誘導法の開発	土肥 良一郎	腫瘍外科(第一外科)	2,340,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
変形性顎関節症(SAMP3)マウスを用いた顎関節形態変化と顎機能障害の関連の解明	森内 絵美	矯正歯科	1,950,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
肺癌術後患者における術後呼吸筋機能障害に着目した新たなアプローチの検討	及川 真人	リハビリテーション部	910,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
腹腔内カンジダ症における病態解析と新たな治療戦略の開発	芦澤 信之	感染制御教育センター	1,820,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞が肝臓構成細胞へ与える影響からみるNASH治療標的の探索	福島 真典	消化器内科	1,690,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
マクロファージにおける交感神経と副交感神経を介した抗炎症効果の相互作用の解明	牟田 久美子	呼吸器内科(第二内科)	1,430,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
肺非結核性抗酸菌症の新規治療法開発に向けた組織常在型リンパ球による予防効果の検証	岩永 直樹	呼吸器内科(第二内科)	1,690,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
植物性アルカロイドであるセファランチンを応用した義歯患者用機能的口腔保湿剤の開発	叶井 里歩	義歯補綴治療室	1,560,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
成育期の咀嚼・嚥下機能発達不全がオーラルフレイルを引き起こすメカニズムの解明	吉見 知子	矯正歯科	2,340,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
運動療法と栄養療法の相乗効果による重症大動脈弁狭窄症患者の予後改善への挑戦	矢野 雄大	リハビリテーション部	2,340,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
オーラルスキャナを応用したテーラーメイド電動歯ブラシの開発と有効性について	小関 優作	口腔管理センター	3,250,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
多剤耐性緑膿菌による人工呼吸器関連肺炎モデルにおけるIL-22の有効性の検討	岩永 直樹	呼吸器内科 (第二内科)	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
銀系無機抗菌剤と上皮成長因子伝達能を有するティッシュコンディショナーの開発	叶井 里歩	義歯補綴治療室	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
見える化した医療者の手技と機能評価を学習した人工知能による嚥下機能評価法の構築	高橋 陽助	麻酔・生体管理科	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
リハビリテーション効果を促進する新たな介入戦略としてのN-back課題の有効性	光永 済	リハビリテーション部	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
膵癌EUS-FNA検体を用いたex vivo培養システム構築と新規薬剤感受性試験の確立	高橋 孝輔	総合患者支援部	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
ラットCLiPを用いた肝小葉様構造の作製および移植の実施、構造並びに機能評価	哲翁 華子	移植・消化器外科(第二外科)	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
歯周病および歯周病原細菌量と咀嚼機能の変化が糖尿病へ及ぼす影響:五島コホート研究	大平 真之	歯科保存治療室 (保存・補綴歯科)	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
炭酸アパタイトの骨置換制御機構解明による個別化骨補填材料創製のための基盤構築研究	張 暁旭	冠補綴治療室	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
特定健診の受診集団を対象とした電子的患者報告アウトカム(ePRO)の開発	矢野 浩史	臨床研究センター	1,040,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平上皮癌患者の口腔内細菌叢Dysbiosis同定と革新的癌複合免疫療法開発	岡野 慎士	病理診断科・病理部	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
肺リンパ腫における気管支肺胞洗浄液を用いた内科的診断手法の確立	原 敦子	呼吸器内科 (第二内科)	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
単球機能解析からアプローチする全身性強皮症の新規バイオマーカーおよび治療標的の同定	岩本 直樹	リウマチ・膠原病内科 (第一内科)	1,690,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
骨髄異形成症候群におけるKMT2Dの役割の解明とそれに基づいた新規治療法の開発	安東 恒史	血液内科 (原研内科)	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
男性骨粗鬆症の病態解明を目指したコホート調査:高解像度定量的CTによる解析	岡崎 成弘	整形外科	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
交代勤務看護師を対象とした認知行動療法を用いた睡眠衛生教育プログラムの確立	長浦 由紀 (現姓:牛込 由紀)	総合診療科	39,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
気道・肺検体に蓄積されたマイクロプラスチックの呼吸器疾患への影響に関する研究	溝口 聡	腫瘍外科 (第一外科)	520,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチとシトルリン化蛋白質の関係にリボソームの異常から迫る	福井 翔一	臨床研究センター	2,600,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
hsdS遺伝子組換え膜光透過性固定株を用いた侵襲性肺炎球菌感染症のメカニズム解明	山本 和子	呼吸器内科 (第二内科)	1,449,524	(補委)独立行政法人日本学術振興会
前頭部多点表面筋電図の筋シナジー解析に基づく革新的摂食嚥下機能評価システムの開発	玉田 泰嗣	特殊歯科総合診療部	195,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
神経ペプチドPACAPの熱中症による全身および神経炎症抑制機構の解明	諸藤 陽一	脳神経外科	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
前頭部多点表面筋電図の筋シナジー解析に基づく革新的摂食嚥下機能評価システムの開発	高橋 陽助	麻酔・生体管理科	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
原子力災害時の汚染傷病者受入れの放射線管理に関する指針の提案	井山 慶大	高度救命救急センター	195,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
ビッグデータ活用による健康寿命延伸と医療・介護費抑制に資する口腔のエビデンス創出	佐藤 俊太郎	臨床研究センター (臨床研究ユニット)	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
自己細胞を用いた人工気管による再生医療と難治性気道疾患への応用	松本 桂太郎	腫瘍外科学(第一外科)	2,470,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
プレジジョンインプラント治療を目指した時間依存性荷重誘発型骨質最適化分子の探索	澤瀬 隆	口腔インプラント学(歯科補綴学第一)	3,120,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
生理活性物質徐放能とナノ複合化光触媒機能をもつ多機能粘弾性軟質リライン材の開発	村田 比呂司	歯科補綴学(歯科補綴学第二)	2,990,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
HTLV-1の分子系統別疾患感受性の解明と層別化コホート研究の構築	前田 隆浩	総合診療科	3,120,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ES細胞由来小腸オルガノイドを用いた再生医療による短腸症候群の革新的治療	江口 晋	移植・消化器外科(第二外科)	5,590,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
多疾患併存は高齢者の加齢性身体機能低下とどのような疫学的関連性があるのか	山梨 啓友	総合診療学	3,770,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
組織マクロファージの動的恒常性維持機能を標的軸としたデザイン細胞医薬の開発	住田 吉慶	細胞生物学	6,110,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
マクロファージのヒエラルキー決定によるMRONJ病因解明と新規治療法開発基盤構築	黒嶋 伸一郎	口腔インプラント学(歯科補綴学第一)	6,110,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬の効果に関する研究	川崎 五郎	口腔腫瘍治療学(口腔外科学第一)	1,040,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
HSP47をターゲットとした肺線維症治療薬の開発	迎 寛	呼吸器内科(第二内科)	1,690,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
肺線維症における γ δ 細胞の役割解明と治療応用に向けた基盤研究	坂本 憲穂	呼吸器内科(第二内科)	1,690,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
カルボキシメチルセルロース(CMC)アレルギーの実態調査と発症病態の解明	橋本 邦生	小児科学	130,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
括約筋再生のための機能的筋細胞シートの開発	金高 賢悟	移植・消化器外科(第二外科)	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
薬理学的循環補助におけるアドレナリン β 2受容体の役割	原 哲也	麻酔科	1,040,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
歯周病によるNLRP3インフラマソーム活性化が全身疾患に及ぼす影響	吉村 篤利	歯周歯内治療学	1,430,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
天然活性物質含有ナノバブル水を利用した無髄歯に対する革新的象牙質改質剤の開発	山田 志津香	歯周歯内治療学	1,066,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
USを用いた高精度口腔癌リンパ節転移診断法の確立	榮田 智	歯科放射線学	1,560,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
組織常在CD34陽性細胞の分化機序を標的とした放射性唾液腺萎縮症の治療薬の開発	井 隆司	顎口腔再生外科学(口腔外科学第二)	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
高機能細胞治療薬E-MNCを用いた放射性顎骨壊死の治療法の確立	大場 誠悟	顎口腔再生外科学(口腔外科学第二)	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
軟食化と神経伝達異常が咀嚼・嚥下機能に及ぼす影響の解明とオーラルフレイル予防戦略	吉田 教明	矯正歯科(歯科矯正学)	1,430,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
歯根吸収抑制におけるcPLA2の役割－硝子様変性と破歯細胞活性を標的にして－	佛坂 斉社	矯正歯科(歯科矯正学)	1,040,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
「複数菌の病原性を抑えて混合感染症を制御する」に向けた試み	西口 美由季	小児歯科学	1,170,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
低濃度フッ化物を用いた放射性う蝕予防に関する多施設共同第Ⅲ相試験	五月女 さき子	口腔保健学(予防歯科)	1,430,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
医療・介護連結ビッグデータによるポリファーマシーと介護リスクの関連分析	永田 康浩	地域医療学	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
蛋白増幅法の検出法をベースとした神経変性疾患を鑑別できる新規バイオマーカーの開発	佐藤 克也	保健科学分野	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
デジタルパソロジーによる病因に基づく非アルコール性脂肪性肝疾患の病理像の探索	宮明 寿光	消化器内科	1,560,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
活性化肝星細胞におけるSOCS3のエピジェネティック抑制とSTAT3の活性化亢進	中尾 一彦	消化器内科	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
肺動脈性肺高血圧における長鎖ノンコーディングRNAの意義の解明	前村 浩二	循環器内科	1,170,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
関節炎が起こる前段階で関節リウマチの発症を人工知能で予測する多角的研究	玉井 慎美	リウマチ・膠原病内科学(第一内科)	1,950,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
膝島内環境における細胞代謝変化と自己免疫性糖尿病進展の関連性の検討	二里 哲朗	リウマチ・膠原病内科学(第一内科)	1,690,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	三浦 崇	心臓血管外科学	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
オピオイド受容体の細胞内局在と活性変化に基づく最適なオピオイド順次投与法の確立	村田 寛明	麻酔科	1,820,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
顕微鏡手術へのロボット導入の為の高解像度3Dモニター下微細手術の問題解明	松尾 孝之	脳神経外科	1,170,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん脳転移にペリサイトが及ぼす影響をin vitro血液脳関門モデルで解明する	氏福 健太	脳神経外科	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
灌流型3次元血液脳関門モデルを用いた中枢神経保護薬の探求	出雲 剛	脳神経外科	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
陣痛発来と関連するRNAプロファイルの同定とその臨床的意義に関する研究	三浦 清徳	産科婦人科	910,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
卵巣の局所炎症による卵巣周囲間質細胞を介した卵巣予備能の低下機序の解明	北島 道夫	産科婦人科	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
産科疾患における妊娠産物由来間葉系幹細胞・エクソソームの臨床的意義に関する研究	三浦 生子	産科婦人科	780,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
歯周病発症における新規小胞輸送因子の分子機構の解析	近藤 好夫	小児歯科学	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
リソソームに着目した口腔癌細胞のマルチモーダルイメージング解析	角 忠輝	展開医療科学講座 歯学臨床教育担当	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
幼小児期の味覚を標的とした「トラッキング」に基づく「生活習慣病」予防対策の実用化	藤山 理恵	総合歯科臨床教育学	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
Mixed Realityと人工知能で実現する関節リウマチ遠隔医療システムの構築	川尻 真也	リウマチ・膠原病内科学（第一内科）	2,730,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
特発性多中心性キャッスルマン病の病型をクラスティングする分子基盤研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学（第一内科）	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
新規モデルマウスを用いたアスペルギローマ排除機構の解明および薬物動態の解析	田代 将人	感染免疫学講座	2,470,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
1型糖尿病のエフェクター機能を反映した抗原特異的T細胞マーカーの開発	赤澤 諭	先進予防医学講座 リウマチ・膠原病内科学	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
低分子化合物によるリプログラミング技術を用いた自己非β膵細胞からの新規β細胞誘導	足立 智彦	展開医療科学講座 移植・消化器外科学	1,040,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
化学的誘導肝前駆細胞によるin vivoにおける胆管再構築	曾山 明彦	共同研究講座 先端技術展開外科学講座	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
Ex vivo再生肺による肺線維症モデルとマクロファージの役割の解明	永安 武	腫瘍外科学(第一外科)	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
SGLT阻害薬が心筋虚血再灌流障害時の内在性臓器保護効果に与える影響と機序解明	一ノ宮 大雅	麻酔科	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
加齢黄斑変性の予後改善を目指した治療抵抗例の検討とGLP1刺激による新規治療開発	大石 明生	眼科	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
数値流体力学を利用した網膜静脈閉塞リスク評価	北岡 隆	展開医療科学講座 眼科・視覚科学	3,120,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
ケロイド発生に対するfibroblast分化の関与	檜山 和也	展開医療科学講座 形成再建外科学	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
鎮静中の周期性呼吸波形の自動検出を基本原理とした新しい鎮静モニターの開発	鮎瀬 卓郎	歯科麻酔学	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
MRIと深層学習を用いた口腔癌リンパ節転移予測法の確立	角 美佐	歯科放射線学	1,950,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
低酸素細胞の放射線抵抗性におけるcPLA2の働き	片山 郁夫	歯科放射線学	1,820,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
大規模コホート研究による口腔機能低下症の新規検査法開発研究	澤瀬 隆	口腔インプラント学(歯科補綴学第一)	650,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞由来巨核球を骨誘導のデザイナー細胞として応用した新しい骨再生治療開発	住田 吉慶	細胞生物学	2,210,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
マウスモデルを用いたカンジダ属の薬剤耐性機序の解明	平山 達朗	薬物治療学	1,560,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
化学修飾microRNAや環状RNAを搭載した新規骨誘導性遺伝子活性化基質	四道 玲奈	顎口腔再生外科学(口腔外科学第二)	1,170,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
立体的薬物動態システムを利用したがん細胞の薬物耐性変化のモニタリング	宮本 大輔	移植・消化器外科(第二外科)	1,300,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
弾性線維性仮性黄色腫の病態解明の研究ならびに重症度および予後因子の研究	岩永 聡	皮膚科	2,080,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
修飾一本鎖miRNAを搭載した新規遺伝子活性化人工骨基質の開発	檜原 峻	顎口腔再生外科学(口腔外科学第二)	1,430,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
即時埋入とPTH製剤の相乗的骨量・骨質向上効果による革新的インプラント治療法開発	右藤 友督	口腔インプラント学(歯科補綴学第一)	1,820,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
荷重応答性骨質制御機構を応用した個別化インプラント荷重プロトコルの開発	内田 悠介	口腔インプラント学(歯科補綴学第一)	1,950,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
糖尿病ラットにおけるLPS歯肉溝滴下歯周炎モデルの作製と補体の発症・進行への関与	山下 恭徳	歯周歯内治療学	1,950,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
NLRP3インフラマソームを介する歯周病と糖尿病の相互作用に関する分子疫学的研究	樋口 賀奈子	口腔管理センター	2,340,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
アセチルクエン酸トリブチルを用いた生体親和性の高い光重合型軟質リライン材の開発	森 智康	展開医療科学講座 歯科補綴学	1,690,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
自己免疫性自律神経節障害の「多様性」に関する多角的研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学(第一内科)	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
ベーチェット病のゲノムワイド型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築	川上 純	リウマチ・膠原病内科学(第一内科)	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
環境中化学物質による気管支喘息症の中心的役割としてのエクソソームとそのmiRNA	尾長谷 靖	呼吸器内科(第二内科)	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
自己炎症疾患の発作の周期性や炎症の多様性を規定する責任分子調節分子群の包括的同定	川上 純	リウマチ・膠原病内科学(第一内科)	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
採取容易な検体を用いたクローイツフェルト・ヤコブ病早期診断法の確立	佐藤 克也	保健科学分野	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
食品基礎科学を応用した新規咀嚼機能評価法の開発とオーラルフレイルへの波及効果	梅田 正博	口腔腫瘍治療学(口腔外科学第一)	26,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
「咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2019」喀痰総論の改訂に向けたエビデンスの構築	迎 寛	呼吸器内科(第二内科)	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
下顎無歯顎に応用する軟質リライン材の臨床効果-多施設ランダム化比較試験-	村田 比呂司	歯科補綴学(歯科補綴学第二)	104,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
マイクロ流体デバイスを用いた血中循環がん細胞クラスター抽出法の開発	住田 吉慶	細胞生物学	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
樹状細胞を新機軸とした骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の病態解明と新規治療法・予防法開発	黒嶋 伸一郎	口腔インプラント学(歯科補綴学第一)	260,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
IgG4関連涙腺・唾液腺炎の診断基準への超音波診断導入のための多施設共同研究	高木 幸則	歯科放射線学	104,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
個別最適化した超早期認知症予防介入プログラムの開発とシステム構築	佐藤 克也	保健科学分野	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平上皮癌頸部リンパ節転移被膜外浸潤メカニズムの分子生物学的検討	梅田 正博	口腔腫瘍治療学(口腔外科学第一)	13,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
認知症ケアに有用な「触れるケア技術」の研究開発	佐藤 克也	保健科学分野	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
口腔常時菌による血流感染の発症機構に基づいた医科歯科連携による高度管理方法の構築	五月女 さき子	口腔保健学(予防歯科)	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
肝ECMスポンジニードルを基盤とした肝表搭載型Detachable-Liver	江口 晋	移植・消化器外科(第二外科)	195,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
好中球と関連miRNA発現制御による創傷治癒遅延機構の解明と革新的治療法の開発	田中 克己	展開医療科学講座 形成再建外科学	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
好中球と関連miRNA発現制御による創傷治癒遅延機構の解明と革新的治療法の開発	坂本 憲徳	呼吸器内科(第二内科)	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
高齢者の機能菌数・オーラルフレイルと唾液中細菌の関連:天草コホート研究	梅田 正博	口腔腫瘍治療学(口腔外科学第一)	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
高齢者の機能菌数・オーラルフレイルと唾液中細菌の関連:天草コホート研究	五月女 さき子	口腔保健学(予防歯科)	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
尿中蛋白質断片の網羅的解析による日和見感染症の新規診断法の開発	平山 達朗	薬物治療学	260,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
口腔癌遠隔転移に関与する循環腫瘍細胞および循環腫瘍DNAの多施設共同研究	梅田 正博	口腔腫瘍治療学(口腔外科学第一)	130,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
様々な臓器再生に応用可能な人工臓器基本骨格作製と大量生産・品質向上の基礎的研究	松本 桂太郎	腫瘍外科学(第一外科)	1,690,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会
抜歯後MRONJ発症機序の解明および予防策の確立	梅田 正博	口腔腫瘍治療学(口腔外科学第一)	65,000	(補委)独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抜歯後MRONJ発症機序の解明 および予防策の確立	五月女 さき子	口腔保健学(予防歯科)	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
関節リウマチとシトルリン化蛋白 質の関係にリボソームの異常から 迫る	福井 翔一	臨床研究センター	2,600,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
単球機能解析からアプローチす る全身性強皮症の新規バイオ マーカーおよび治療標的の同定	岩本 直樹	リウマチ・膠原病内科 (第一内科)	1,690,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
早期診断が困難な腎移植後抗体 関連型拒絶反応に対する革新的 検査法の創出	今村 亮一	展開医療科学講座 泌 尿器科学	1,560,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
腎移植患者におけるSGLT2阻害 薬の腎保護効果	今村 亮一	展開医療科学講座 泌 尿器科学	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
シリコン微細粒子経口投与による ラット異系腎移植モデルにおける 免疫応答への効果	今村 亮一	展開医療科学講座 泌 尿器科学	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
HMGB1ペプチドを用いた末梢血 間葉系幹細胞動員による腎線維 化の抑制	今村 亮一	展開医療科学講座 泌 尿器科学	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
腎移植後拒絶反応の診断および 治療効果予測のための革新的新 規バイオマーカーの創出	今村 亮一	展開医療科学講座 泌 尿器科学	130,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
びまん性肝腫瘍に対する症状緩 和効果の向上を目指した肝機能 温存放射線治療の開発	東家 亮	展開医療科学講座 放 射線診断治療学	1,040,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
組織骨格を利用した再生臓器に おけるハイブリッド型血管ニッチ の確立と移植研究	永安 武	腫瘍外科学(第一外科)	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
ADAMを介した全身性エリテマ トーデスにおけるTh17細胞分化 制御機構の解明	梅田 雅孝	総合診療学	2,600,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
救急医療における深層学習を用 いた腹部CT画像AI診断補助シ ステムの開発	中尾 康彦	消化器内科	2,600,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
T細胞Secretome解析を用いた全 身性エリテマトーデスの病態制御 機構の解明	梅田 雅孝	総合診療学	1,300,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
家族性地中海熱の病態における 免疫老化の意義を明らかにする 研究	古賀 智裕	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	1,560,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
ベーチェット病のゲノムワイド重 型解析によるエビデンス創出とレ ジストーリー構築	古賀 智裕	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
自己炎症疾患の発作の周期性 や炎症の多様性を規定する責任 分子群の包括的同定	古賀 智裕	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	130,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
パイリンインフラマソーム活性化メ カニズムの解明とその制御法の 開発	古賀 智裕	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
自己炎症のメカニズムに立脚した 成人スチル病の分子病態の解明	古賀 智裕	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	39,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興 会
5類型施設における効率的な臓 器・組織の提供体制構築に資す る研究ードナー評価・管理と術中 管理体制の新たな体制構築に向 けてー	田崎 修	高度救命救急センター	2,550,000	(補委)	厚生労働省
地域医療構想を見据えた救急医 療提供体制の構築に関する研究	高山 隼人	地域医療支援センター	180,000	(補委)	厚生労働省
食品を介したダイオキシン類等の 人体への影響の把握とその治療 法の開発等に関する研究	上松 聖典	眼科	700,000	(補委)	厚生労働省
ギヤツスレマン病、IAFRO症候 群、類縁疾患の診療ガイドライン の策定や更なる改良に向けた国 際的な総意形成を踏まえた調査 研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	8,999,000	(補委)	厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感 染患者に対する肝移植を含めた 外科治療に関する研究	江口 晋	移植・消化器外科(第二 外科)	20,000,000	(補委)	厚生労働省
発汗異常を伴う稀少難治療性疾 患の治療指針作成、疫学調査の 研究	室田 浩之	皮膚病態学	10,000,000	(補委)	厚生労働省
臓器移植のサステナビリティ向上 のための課題解決に向けた研究	江口 晋	移植・消化器外科(第二 外科)	2,392,000	(補委)	厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感 染患者に対する肝移植を含めた 外科治療に関する研究	中尾 一彦	消化器内科	200,000	(補委)	厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感 染患者に対する肝移植を含めた 外科治療に関する研究	原 哲也	麻酔科	200,000	(補委)	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	1,000,000	(補委)	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、移行医療体制の構築、診療ガイドライン確立に関する研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学（第一内科）	600,000	補委	厚生労働省
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	川上 純	リウマチ・膠原病内科学（第一内科）	100,000	補委	厚生労働省
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	川上 純	リウマチ・膠原病内科学（第一内科）	200,000	補委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者QOL向上に資する大規模多施設研究	尾崎 誠	整形外科学	100,000	補委	厚生労働省
HTLV-1母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究	森内 浩幸	小児科学	300,000	補委	厚生労働省
HTLV-1母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究	三浦 清徳	産科婦人科	300,000	補委	厚生労働省
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	室田 浩之	皮膚病態学	500,000	補委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	佐藤 克也	保健科学分野	800,000	補委	厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	伊達木 澄人	小児科学	200,000	補委	厚生労働省
人口動態や地域の実情に対応するべき地医療の推進を図るための研究	前田 隆浩	総合診療科	500,000	補委	厚生労働省
非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者に合併する腫瘍への包括的対策に関する研究	江口 晋	移植・消化器外科(第二外科)	300,000	補委	厚生労働省
食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	室田 浩之	皮膚病態学	3,710,000	補委	厚生労働省
食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	川崎 五郎	口腔腫瘍治療学(口腔外科学第一)	420,000	補委	厚生労働省
医療機関における院内感染対策の質向上のための研究	柳原 克紀	臨床検査医学	300,000	補委	厚生労働省
感染症危機対応医薬品等の利用可能性確保に関する研究	柳原 克紀	臨床検査医学	3,000,000	補委	厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	佐藤 克也	保健科学分野	5,000,000	補委	厚生労働省
周産期医療施設への妊産婦のアクセスの確保に向けた調査研究	三浦 清徳	産科婦人科	1,000,000	補委	厚生労働省
成人発症スチル病(AOSD)に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩／クエン酸第一鉄ナトリウム(5-ALAHCL/SFC)投与の医師主導治験	川上 純	リウマチ・膠原病内科学（第一内科）	93,600,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
表在性非乳頭部十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療と腹腔鏡手術と再生医療を組み合わせた革新的な術式の開発	金高 賢悟	移植・消化器外科(第二外科)	75,302,168	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
t(8;21)およびinv(16)陽性AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を指標とするゲムツズマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性と安全性を評価する研究	宮崎 泰司	原爆後障害医療研究所	17,550,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
統合レジストリを活用したキャッスルマン病・TAFRO症候群における精密医療基盤の構築を目指す実用化研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	13,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
低分子化合物による自己肝前駆細胞を用いた革新的肝硬変治療	江口 晋	移植・消化器外科(第二外科)	37,011,969	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
統合レジストリによる多発性筋炎／皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	780,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	585,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出	松尾 朋博	泌尿器科学	585,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床開発を目指したベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査研究	里 龍晴	小児科	195,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	長谷川 寛雄	検査部	1,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
保健・医療・介護・行政データを統合した大規模データベースを活用したワクチンの有効性・安全性の検証に資する研究開発	佐藤 俊太郎	臨床研究センター (臨床研究ユニット)	5,200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立:薬事承認を目的とした第II相医師主導治験	今泉 芳孝	血液内科学研究分野	3,900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病に対する移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植法の確立と移植後再発への対策に関する研究	糸永 英弘	血液内科 (原研内科)	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
移植免疫寛容を誘導する再生医療等製品「誘導型抑制性T細胞」の医師主導治験と承認申請に向けた取り組み	江口 晋	移植・消化器外科(第二外科)	4,018,377	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性食道癌におけるPrecision Medicineに資する診断技術開発に関する研究	松島 加代子	医療教育開発センター (医科)	130,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
低線量CTによる肺がん検診の実用化を目指した無作為化比較試験研究	芦澤 和人	臨床腫瘍学	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者急性骨髄性白血病の化学療法が可能な症例に対して若年成人標準化学療法の近似用量を用いる第II相臨床試験: JALSG-GML219試験	宮崎 泰司	原爆後障害医療研究所	650,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究	森内 浩幸	小児科学	4,249,034	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	吉浦 孝一郎	原爆後障害医療研究所	7,800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MEFV遺伝子の網羅的なVUS機能的アノテーションと新規Ex vivo assayを用いた患者細胞機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びパイリンインフラマソーム活性化機構解明	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	650,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
たんばく質必要量の評価のための基礎データ構築研究	佐藤 俊太郎	臨床研究センター (臨床研究ユニット)	195,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
COVID-19による中等症肺炎の治療薬開発—Phase II a試験	迎 寛	呼吸器内科(第二内科)	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MAGE-A4抗原を発現する切除不能進行・再発腫瘍に対するCAR-T細胞療法の医師主導第I相治験	江口 晋	移植・消化器外科(第二外科)	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MAGE-A4抗原を発現する切除不能進行・再発腫瘍に対するCAR-T細胞療法の医師主導第I相治験	熊井 良彦	移植・消化器外科学	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
低分子化合物による自己肝前駆細胞を用いた革新的肝硬変治療	長井 一浩	細胞療法部	1,950,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ミトコンドリア分子連関を介した重点感染症の治療薬開発	西野 友哉	腎臓内科	2,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
進行直腸癌に対する導入/強化化学療法を併用した化学放射線療法後の待機療法に関する多施設ランダム化第II相試験	富永 哲郎	大腸・肛門外科	390,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬剤耐性菌対策に資する診断法・治療法等の開発研究	柳原 克紀	臨床検査医学	17,550,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多発性筋炎/皮膚筋炎に伴う進行性フェノタイプを示す間質性肺疾患に対する活性型IL-18特異的中和抗体の開発研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学（第一内科）	23,400,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群長崎シンジューキャンパス(出島特区)	古瀬 祐気	感染免疫学講座 ウイルス学	3,744,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	三浦 清徳	産科婦人科	2,300,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝硬変患者のQOLの向上及び予後改善に資する研究	中尾 一彦	消化器内科	390,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高解像度3次元イメージングによる特発性後天性全身性無汗症の神経病態解析	室田 浩之	皮膚病態学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
再生医療等安全性確保法に従い実施される再生医療等臨床研究および再生医療等製品等の開発を目指す医師主導治験等を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの実現	江口 晋	移植・消化器外科(第二外科)	4,420,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによる母子感染予防法の開発及びHTLV-1抗体医薬品製剤化に関する総合的研究	森内 浩幸	小児科学	650,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ナショナルセンター・バイオバンクネットワークを基盤とする疾患別情報統合データベースを活用した産学官連携による創薬開発研究	佐藤 克也	保健科学分野	13,000,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インターフェロンフリー治療がC型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	中尾 一彦	消化器内科	1,040,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
母子感染のリスク評価と先天性感染の新たな診断・予防法の開発研究	森内 浩幸	小児科学	1,040,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
宿主免疫異常に着目したCOVID-19小児例における重症化の分子機構の解明	森内 浩幸	小児科学	1,040,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	堀江 一郎	内分泌・代謝内科	300,000	補 (委)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
デュシェンヌ型筋ジストロフィー（以下「DMD」という）を対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究(Remudy-DMD)	里 龍晴	小児科	308,000	補 (委)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
切除不能肝細胞癌におけるアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法、外科的切除を用いた集学的治療の安全性、有効性を検討する多施設共同第II相臨床研究（研究略名：RACB）	江口 晋	移植・消化器外科(第二外科)	220,000	補 (委)	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入終了後の追跡研究J-DOIT3(追跡)	前村 浩二	循環器内科	200,000	補 (委)	公益財団法人日本糖尿病財団
洞不全症候群・心房細動の関連遺伝子単離と機能解析:J-PRES3	前村 浩二	循環器内科	4,000	補 (委)	国立研究開発法人国立循環器病研究セン

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
契約番号「22-221036034」・ムー ンショット型研究開発事業・通常 型研究題目「発達障害・うつ病患 者実証実験研究」	熊崎 博一	展開医療科学講座 精 神神経科学□	28,340,000	補 委	国立研究開発 法人科学技術 振興機関 (JST)
契約番号「22-221035947」・戦略 的創造研究推進事業・チーム研 究型(CREST)研究題目「マルチ タスクAIによる5歳児協調健診に おける大規模実験と実稼働」	熊崎 博一	展開医療科学講座 精 神神経科学□	14,560,000	補 委	国立研究開発 法人科学技術 振興機関 (JST)
周産期医療体制の維持に必要な 医師育成・確保事業	三浦 清徳	産科婦人科	11,000,000	補 委	佐賀県
脳動脈瘤の増大およびコイル塞 栓術後再発におけるパロキセチ ンの抑制効果の後ろ向き検討	出雲 剛	脳神経外科	15,000	補 委	独立行政法人 国立病院機構 京都医療セン ター
離島の発達障害児医療における アバターロボットの活用支援体制 の構築	永田 康浩	地域医療学	3,900,000	補 委	国立研究開発 法人科学技術 振興機関
契約番号「22-221037842」・未来 社会創造事業・探索加速型(探 索研究)	熊崎 博一	展開医療科学講座 精 神神経科学□	650,000	補 委	国立研究開発 法人科学技術 振興機関
H3「バイオマテリアルによる細胞 接着活性に基づく新規肺炎患治 療細胞の創出」	岩竹 真弓	腫瘍外科学(第一外科)	3,900,000	補 委	国立大学法人 九州大学
腸管細胞シートでの腸間膜移植に よる自己組織化腸管グラフトの構 築【A209】	宮本 大輔	移植・消化器外科(第二 外科)	2,040,579	補 委	国立大学法人 京都大学
エコシステム推進型(START)スタートア ップ・エコシステム形成支援	室田 浩之	皮膚病態学	5,000,000	補 委	国立研究開発 法人科学技術 振興機関
ながさき地域医療人材支援セン ター業務	永田 康浩	地域医療学	3,800,000	補 委	長崎県知事
歯周疾患検診の実施及び評価と 佐世保市の歯・口腔の健康づくりに 関する研究	川下 由美子	社会医療科学講座 口 腔保健学	1,000,000	補 委	佐世保市
障がい児のう蝕・歯周疾患等の 歯科健診及びその評価と、障が い児のう蝕・歯周疾患等の予防 に関する研究	田上 直美	小児歯科学	305,000	補 委	佐世保市
動脈硬化を中心とした生活習慣 病関連因子の調査・研究	林田 直美	放射線リスク制御学講 座 放射線・環境健康影 響学	700,000	補 委	佐々町
生体弁置換術後の抗凝固療法 における直接経口抗凝固薬エド キサパンの有効性および安全性 に関する多施設共同無作為化比 較試験	三浦 崇	心臓血管外科学	3,355,000	補 委	国立研究開発 法人 国立循 環器病研究セ ンター
じん肺健康診断とじん肺管理区 分決定の適切な実施に関する研 究	芦澤 和人	臨床腫瘍学	11,000,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構

- (注)
1
2
3
- 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計305件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Suzuki K.; Kawamura K.; Ujiie R.; et al.	放射線リスク制御	Characterization of radiation-induced micronuclei associated with premature senescence, and their selective removal by senolytic drug, ABT- 263	Mutat Res Genet Toxicol Environ Mutagen. 2022 Apr-May;876- 877:503448. doi: 10.1016/j.mrgentox.2022.503448. Epub 2022 Jan 15.	Original Article
2	Suzuki K.; Imaoka T.; Tomita M.; et al.	放射線リスク制御	Molecular and cellular basis of the dose-rate- dependent adverse effects of radiation exposure in animal models. Part II: Hematopoietic system, lung and liver	J Radiat Res. 2023 Mar 23;64(2):228- 249. doi: 10.1093/jrr/rrad003.	Review
3	Suzuki K.; Imaoka T.; Tomita M.; et al.	放射線リスク制御	Molecular and cellular basis of the dose-rate- dependent adverse effects of radiation exposure in animal models. Part I: Mammary gland and digestive tract	J Radiat Res. 2023 Mar 23;64(2):210- 227. doi: 10.1093/jrr/rrad002.	Review
4	Arima H.; Koirala S.; Nema K.; et al.	環境医学	High prevalence of rheumatoid arthritis and its risk factors among Tibetan highlanders living in Tsarang, Mustang district of Nepal	J Physiol Anthropol. 2022 Apr 2;41(1):12. doi: 10.1186/s40101-022- 00283-3.	Original Article
5	Arima H.; Calliope A.S.; Fukuda H.; et al.	環境医学	Oral cleaning habits and the copy number of periodontal bacteria in pregnant women and its correlation with birth outcomes: an epidemiological study in Mibilizi, Rwanda	BMC Oral Health. 2022 Sep 26;22(1):428. doi: 10.1186/s12903- 022-02443-4.	Original Article
6	Yanamoto S.; Michi Y.; Otsuru M.; et al.	口腔外科	Protocol for a multicentre, prospective observational study of elective neck dissection for clinically node-negative oral tongue squamous cell carcinoma (END-TC study)	BMJ Open. 2022 Sep 13;12(9):e059615. doi: 10.1136/bmjopen-2021-059615.	Original Article
7	Honda Y.; Takahashi A.; Tanaka N.; et al.	理学療法学	Muscle contractile exercise through a belt electrode device prevents myofiber atrophy, muscle contracture, and muscular pain in immobilized rat gastrocnemius muscle	PLoS One. 2022 Sep 23;17(9):e0275175. doi: 10.1371/journal.pone.0275175. eCollection 2022.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
8	Kitajima M.; Kajimura I.; Kitajima Y.; et al.	産科婦人科学	AMH producing purely cystic virilizing adult granulosa cell tumor in 17 years old girl: a case report and review of literatures	J Ovarian Res. 2023 Mar 15;16(1):52. doi: 10.1186/s13048-023-01134-0.	Original Article
9	Kitamura N.; Abbas K.; Nathwani D.	臨床研究	Public health and social measures to mitigate the health and economic impact of the COVID-19 pandemic in Turkey, Egypt, Ukraine, Kazakhstan, and Poland during 2020-2021: situational analysis	BMC Public Health. 2022 May 17;22(1):991. doi: 10.1186/s12889- 022-13411-6.	Original Article
10	Kitamura N.; Bahkali K.; Chem E.D.; et al.	臨床研究	Waning rate of immunity and duration of protective immunity against diphtheria toxoid as a function of age and number of doses: Systematic review and quantitative data analysis	Hum Vaccin Immunother. 2022 Nov 30;18(6):2099700. doi: 10.1080/21645515.2022.2099700. Epub 2022 Jul 21.	Review
11	Katase N.; Kudo K.; Ogawa K.; et al.	口腔病理学	DKK3/CKAP4 axis is associated with advanced stage and poorer prognosis in oral cancer	Oral Dis. 2022 Jun 16. doi: 10.1111/odi.14277. Online ahead of print.	Original Article
12	Taira Y.; Matsuo M.; Orita M.; et al.	放射線リスク制御	Assessment of localized and resuspended 137Cs due to decontamination and demolition in the difficult-to-return zone of Tomioka town, Fukushima Prefecture	Integr Environ Assess Manag. 2022 Nov;18(6):1555-1563. doi: 10.1002/ieam.4625. Epub 2022 May 21.	Original Article
13	Taira Y.; Egoshi T.; Kaide K.	歯科補綴学	Effects of two methyl methacrylate- tributylborane-based luting agents with a silane-phosphate primer on bonding of four different CAD/CAM resin composite materials	J Oral Sci. 2022;64(2):167-171. doi: 10.2334/josnusd.21-0513. 出版年月日:2022年4月1日	Original Article
14	Tomita Y.; Mizukami S.; Nishimura T.; et al.	公衆衛生学	Association between sarcopenia and respiratory function in elderly orthopedic outpatients	Medicine (Baltimore). 2022 Jul 22;101(29):e29365. doi: 10.1097/MD.00000000000029365.	Original Article
15	Tominaga T.; Nonaka T.; Oyama S.; et al.	大腸・肛門外科(第一 外科)	Effect of oxaliplatin in elderly colon cancer patients with pathological T4 and/or N2 disease: a multicenter, propensity score-matched analysis	Int J Colorectal Dis. 2022 May;37(5):1181-1188. doi: 10.1007/s00384-022-04159-x. Epub 2022 Apr 27.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Tominaga T.; Nonaka T.; Oyama S.; et al.	大腸・肛門外科(第一 外科)	Utility of Drain Fluid Culture and Gram Stain in Early Intervention for Occult Anastomotic Leakage in Colorectal Cancer	Anticancer Res. 2022 Jun;42(6):3091-3098. doi: 10.21873/anticancerres.15797.	Original Article
17	Tominaga T.; Nonaka T.; Oyama S.; et al.	大腸・肛門外科(第一 外科)	Gustave Roussy Immune Score for Predicting Postoperative Complications and Non-cancer Death in Elderly Patients with Colon Cancer	Anticancer Res. 2022 Nov;42(11):5643-5653. doi: 10.21873/anticancerres.16073.	Original Article
18	Toizumi M.; Horikoshi Y.	臨床研究	Imported Infectious Diseases, Tropical Diseases and Local Endemic Infectious Diseases in Japan	Pediatr Infect Dis J. 2022 Jul 1;41(7):e275-e282. doi: 10.1097/INF.00000000000003541. Epub 2022 Jun 7.	Review
19	Toizumi M.; Satoh C.; Quilty B.J.; et al.	臨床研究	Effect of pneumococcal conjugate vaccine on prevalence of otitis media with effusion among children in Vietnam	Vaccine. 2022 Aug 26;40(36):5366- 5375. doi: 10.1016/j.vaccine.2022.07.047. Epub 2022 Aug 5.	Original Article
20	Hatayama M.; Katayama K.-I.; Kawahara Y.; et al.	医科薬理学	SLITRK1-mediated noradrenergic projection suppression in the neonatal prefrontal cortex	Commun Biol. 2022 Sep 9;5(1):935. doi: 10.1038/s42003-022-03891-y.	Original Article
21	Shiraishi K.; Chiba K.; Watanabe K.; et al.	整形外科	Analysis of bone erosions in rheumatoid arthritis using HR- pQCT: Development of a measurement algorithm and assessment of longitudinal changes	PLoS One. 2022 Apr 26;17(4):e0265833. doi: 10.1371/journal.pone.0265833. eCollection 2022.	Original Article
22	Hidaka M.; Hara T.; Soyama A.; et al.	移植・消化器外科学	The Outcome of Conversion Liver Resection Surgery by Lenvatinib Treatment: A Single Center Experience	Anticancer Res. 2022 Jun;42(6):3049-3054. doi: 10.21873/anticancerres.15791.	Original Article
23	Narahara S.; Ikeda H.; Ogata K.; et al.	顎口腔再生外科学	Long-term effect of photodynamic therapy on oral squamous cell carcinoma and epithelial dysplasia	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2023 Mar;41:103246. doi: 10.1016/j.pdpdt.2022.103246. Epub 2022 Dec 16.	Original Article
24	Fujita W.; Uchida H.; Kawanishi M.; et al.	医科薬理学	Receptor Transporter Protein 4 (RTP4) in the Hypothalamus Is Involved in the Development of Antinociceptive Tolerance to Morphine	Biomolecules. 2022 Oct 13;12(10):1471. doi: 10.3390/biom12101471.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
25	Tsujino A.; Nagaoka A.; Yoshimura S.	脳神経内科	Response to letter to Editor	J Neurol Sci. 2023 Feb 15;445:120541. doi: 10.1016/j.jns.2023.120541. Epub 2023 Jan 4.	Letter
26	Tsuji Y.; Koga T.; Nonaka F.; et al.	臨床研究センター	Identification of risk factors for elevated serum IgG4 levels in subjects in a large-scale health checkup cohort study	Front Immunol. 2023 Mar 8;14:1124417. doi: 10.3389/fimmu.2023.1124417. eCollection 2023.	Original Article
27	Tsuda K.; Tagami A.; Yamada S.; et al.	整形外科	Computed tomographic evaluation of three types of screw trajectories for posterior cervical spine fixation: Cervical pedicle screw, lateral mass screw, and paravertebral foramen screw	Medicine (Baltimore). 2022 Jul 15;101(28):e29857. doi: 10.1097/MD.00000000000029857.	Original Article
28	Nagaoka A.; Tsujino A.; Shiraishi H.; et al.	脳神経内科	Motor end-plate analysis to diagnose immune-mediated myasthenia gravis in seronegative patients	J Neurol Sci. 2022 Dec 15;443:120494. doi: 10.1016/j.jns.2022.120494. Epub 2022 Nov 14.	Original Article
29	Machino R.; Shimoyama K.; Nagayasu T.; et al.	呼吸器外科(第一外科)	Preoperative inhalation therapy for patients with chronic obstructive pulmonary disease undergoing lung surgery: a retrospective study	J Cardiothorac Surg. 2022 Nov 24;17(1):294. doi: 10.1186/s13019-022-02042-y.	Original Article
30	Nakao Y.; Mawatari F.; Arima T.; et al.	消化器内科	Safe removal of a synthetic paper for cake decoration that had caused a hemorrhagic rectal ulcer using a detachable snare after hemostatic treatment	Endoscopy. 2022 Dec;54(S 02):E1007-E1008. doi: 10.1055/a-1887-6077. Epub 2022 Aug 4.	Original Article
31	Nakahata Y.; Fukada Y.	神経機能学	Molecular connections between circadian clock and health/ageing	J Biochem. 2022 May 11;171(5):473-476. doi: 10.1093/jb/mvac028.	Review
32	Nakayama T.; Sunaoshi M.; Shang Y.; et al.	原爆・ヒバクシャ医療	Calorie restriction alters the mechanisms of radiation-induced mouse thymic lymphomagenesis	PLoS One. 2023 Jan 20;18(1):e0280560. doi: 10.1371/journal.pone.0280560. eCollection 2023.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
33	Ikeda S.; Ueno Y.; Maemura K.; et al.	循環器内科学	Association Between the Development of Thrombosis and Worsening of Disease Severity in Patients With Moderate COVID- 19 on Admission: From the CLOT-COVID Study	Circ J. 2023 Feb 24;87(3):448-455. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0252. Epub 2022 Jul 1.	Original Article
34	Taniguchi H.; Akagi K.; Dotsu Y.; et al.	がん診療センター	Pan-HER inhibitors overcome lorlatinib resistance caused by NRG1/HER3 activation in ALK-rearranged lung cancer	Cancer Sci. 2023 Jan;114(1):164- 173. doi: 10.1111/cas.15579. Epub 2022 Sep 21.	Original Article
35	Ono S.; Adachi T.; Ohtsuka T.; et al.	肝胆膵外科・肝移植外 科(第二外科)	Predictive factors for early recurrence after pancreaticoduodenecto my in patients with resectable pancreatic head cancer: A multicenter retrospective study	Surgery. 2022 Dec;172(6):1782-1790. doi: 10.1016/j.surg.2022.08.004. Epub 2022 Sep 16.	Original Article
36	Ohba K.; Matsuo T.; Mitsunari K.; et al.	泌尿器科学	Preservation of Split Renal Function After Laparoscopic and Robot-assisted Partial Nephrectomy	Anticancer Res. 2022 Jun;42(6):3055-3060. doi: 10.21873/anticancer.15792.	Original Article
37	Otsuru M.; Soutome S.; Omori K.; et al.	口腔外科	Relationship between Drug Holidays of Antiresorptive Agents and Surgical Outcomes in Cancer Patients with Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw	Int J Environ Res Public Health. 2022 Apr 12;19(8):4624. doi: 10.3390/ijerph19084624.	Original Article
38	Otsuru M.; Hasegawa T.; Yamakawa N.; et al.	口腔外科	A Multicenter Study on the Effect of Margin Distance on Survival and Local Control in Stage 1-2 Squamous Cell Carcinoma of the Tongue	Ann Surg Oncol. 2023 Feb;30(2):1158-1166. doi: 10.1245/s10434-022-12462-8. Epub 2022 Sep 20.	Original Article
39	Otsuru M.; Hasegawa T.; Yamakawa N.; et al.	口腔外科	ASO Visual Abstract: A Multicenter Study on the Distance of Closed Margin in Stage 1-2 Squamous Cell Carcinoma of the Tongue	Ann Surg Oncol. 2023 Feb;30(2):1167-1168. doi: 10.1245/s10434-022-12731-6.	Original Article
40	Oishi A.; Maekawa Y.; Kitaoka T.	眼科・視覚科学	Re: Singh et al: Efficacy outcomes of brolucizumab versus aflibercept in neovascular age- related macular degeneration patients with early residual fluid (Ophthalmol Retina. 2022;6:377-386)	Ophthalmol Retina. 2022 Dec;6(12):1264. doi: 10.1016/j.oret.2022.08.021.	Letter

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Ohba S.; Tominaga J.; Shido R.; et al.	顎口腔再生外科学	Influence of different treatment procedures on the temporomandibular joint after mandibular setback in skeletal class III – A retrospective study	J Craniomaxillofac Surg. 2022 Sep;50(9):712–718. doi: 10.1016/j.jcms.2022.07.009. Epub 2022 Aug 1.	Original Article
42	Ota S.; Chiba K.; Okazaki N.; et al.	高度救命救急センター	Cortical thickness mapping at segmented regions in the distal radius using HR-pQCT	J Bone Miner Metab. 2022 Nov;40(6):1021–1032. doi: 10.1007/s00774-022-01370-2. Epub 2022 Oct 11.	Original Article
43	Ota K.; Kurahara R.; Tsukamoto C.; et al.	臨床検査科	Performance of the GeneSoC Rapid PCR System in Detection of SARS-CoV-2 from Saliva Specimens	Microbiol Spectr. 2023 Feb 13;11(2):e0325922. doi: 10.1128/spectrum.03259–22. Online ahead of print.	Letter
44	Murata H.; Yokoyama A.; Hara T.	麻酔集中治療医学	Remimazolam and low-dose flumazenil for awake craniotomy	J Anesth. 2022 Dec;36(6):789–790. doi: 10.1007/s00540-022-03103-1. Epub 2022 Sep 12.	Letter
45	Murata H.; Yokoyama A.; Hara T.	麻酔集中治療医学	Titration of flumazenil during awake craniotomy	J Anesth. 2023 Feb;37(1):166–167. doi: 10.1007/s00540-022-03128-6. Epub 2022 Oct 29.	Letter
46	Soyama A.; Murakami S.; Natsuda K.; et al.	先端技術展開外科学講座	A comparison of postoperative pain between transumbilical and suprapubic incision in laparoscopic liver resection	Asian J Endosc Surg. 2022 Jul;15(3):608–612. doi: 10.1111/ases.13063. Epub 2022 Apr 15.	Original Article
47	Izumida M.; Kotani O.; Hayashi H.; et al.	臨床研究	Unique Mode of Antiviral Action of a Marine Alkaloid against Ebola Virus and SARS-CoV-2	Viruses. 2022 Apr 15;14(4):816. doi: 10.3390/v14040816.	Original Article
48	Kawakami S.; Arima H.	医薬品情報学	Gene and Oligonucleotide Delivery	Drug Metab Pharmacokinet. 2022 Oct;46:100462. doi: 10.1016/j.dmpk.2022.100462. Epub 2022 Apr 25.	Original Article
49	Kawakami A.; Iwamoto N.; Fujio K.	リウマチ・膠原病内科学	Editorial: The role of monocytes/macrophages in autoimmunity and autoinflammation	Front Immunol. 2022 Nov 22;13:1093430. doi: 10.3389/fimmu.2022.1093430. eCollection 2022.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
50	Chiba K.; Okazaki N.; Kurogi A.; et al.	整形外科学	Randomized controlled trial of daily teriparatide, weekly high-dose teriparatide, or bisphosphonate in patients with postmenopausal osteoporosis: The TERABIT study	Bone. 2022 Jul;160:116416. doi: 10.1016/j.bone.2022.116416. Epub 2022 Apr 6.	Original Article
51	Origuchi T.; Umeda M.; Koga T.; et al.	理学療法学	Comparison of complications during 1-year follow-up between remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema syndrome and elderly-onset rheumatoid arthritis	Immunol Med. 2022 Sep;45(3):168-174. doi: 10.1080/25785826.2022.2046307. Epub 2022 Apr 2.	Original Article
52	Ishimoto H.; Sakamoto N.; Hara A.; et al.	保険医療管理部	Interstitial Pneumonia with HLA-B54 Antigen that Responded Well to Erythromycin	Intern Med. 2022 Dec 1;61(23):3559-3562. doi: 10.2169/internalmedicine.9304-21. Epub 2022 Apr 23.	Original Article
53	Ishimoto H.; Sakamoto N.; Ozasa M.; et al.	保険医療管理部	Pulmonary Langerhans Cell Histiocytosis That Progressed from a Single-system to a Multisystem Form despite Smoking Cessation	Intern Med. 2023 Mar 15;62(6):877-880. doi: 10.2169/internalmedicine.0139-22. Epub 2022 Aug 10.	Original Article
54	Ishimaru H.; Ikebe Y.; Morikawa M.; et al.	放射線診断治療学	Significance of Low Signal in Intracranial Vertebral Artery Wall Observed on Susceptibility-Weighted Angiography	Cerebrovasc Dis. 2023;52(1):89-96. doi: 10.1159/000524840. Epub 2022 Jul 6.	Original Article
55	Aoki Y.; Smith C.; Ariyoshi K.	高度救命救急センター	Management of Transfusion-Dependent Thalassaemia Patients in Emergency Situations	J Paediatr Child Health. 2022 Oct;58(10):1912-1913. doi: 10.1111/jpc.16206. Epub 2022 Sep 8.	Letter
56	Aoki Y.; Kitazawa K.	高度救命救急センター	Variety of diagnostic challenges in atypical cat scratch disease	J Infect Chemother. 2023 Feb;29(2):236-237. doi: 10.1016/j.jiac.2022.11.003. Epub 2022 Nov 12.	Letter
57	Nishi Y.; Osumi M.; Morioka S.	理学療法学	Anticipatory postural adjustments mediate the changes in fear-related behaviors in individuals with chronic low back pain	Scand J Pain. 2022 Nov 29. doi: 10.1515/sjpain-2022-0078. Online ahead of print.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
58	Nishi K.; Endo D.; Hasegawa T.; et al.	顎顔面解剖学	Similarities and Differences in Bone Mineral Density between Multiple Sites in the Same Individual: An Elderly Cadaveric Study	Biomed Res Int. 2022 Jun 7;2022:6094663. doi: 10.1155/2022/6094663. eCollection 2022.	Original Article
59	Shimizu Y.; Kawashiri S.-Y.; Nobusue K.; et al.	社会医療科学講座	Association between circulating CD34-positive cell count and height loss among older men	Sci Rep. 2022 May 3;12(1):7175. doi: 10.1038/s41598-022-11040-y.	Original Article
60	Shimizu Y.	社会医療科学講座	Mechanism underlying vascular remodeling in relation to circulating CD34-positive cells among older Japanese men	Sci Rep. 2022 Dec 17;12(1):21823. doi: 10.1038/s41598-022-26089-y.	Original Article
61	Shimizu Y.; Yamanashi H.; Honda Y.; et al.	社会医療科学講座	Low-Density Lipoprotein Cholesterol, Structural Atherosclerosis, and Functional Atherosclerosis in Older Japanese	Nutrients. 2022 Dec 30;15(1):183. doi: 10.3390/nu15010183.	Original Article
62	Shimizu T.; Ide H.; Tsuji Y.; et al.	臨床研究センター	VEXAS syndrome complicated with severe infection	Rheumatology (Oxford). 2022 Nov 28;61(12):e374-e376. doi: 10.1093/rheumatology/keac364.	Letter
63	Shimizu T.; Kawashiri S.-Y.; Morimoto S.; et al.	臨床研究センター	Efficacy and safety of selective JAK 1 inhibitor filgotinib in active rheumatoid arthritis patients with inadequate response to methotrexate: comparative study with filgotinib and tocilizumab examined by clinical index as well as musculoskeletal ultrasound assessment (TRANSFORM study): study protocol for a randomized, open-label, parallel-group, multicenter, and non-inferiority clinical trial	Trials. 2023 Mar 3;24(1):161. doi: 10.1186/s13063-023-07176-5.	Original Article
64	Moriishi T.; Komori T.	細胞生物学	Osteocytes: Their Lacunocanalicular Structure and Mechanoresponses	Int J Mol Sci. 2022 Apr 15;23(8):4373. doi: 10.3390/ijms23084373.	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
65	Morishita K.; Soutome S.; Otsuru M.; et al.	口腔外科	Relationship between drug holiday of the antiresorptive agents and surgical outcome of medication-related osteonecrosis of the jaw in osteoporosis patients	Sci Rep. 2022 Jul 7;12(1):11545. doi: 10.1038/s41598-022-15720-7.	Original Article
66	Ueda H.	創薬薬理学	Prothymosin α - derived hexapeptide prevents the brain damage and sequelae due to ischemia- hemorrhage	Peptides. 2023 Feb;160:170922. doi: 10.1016/j.peptides.2022.170922. Epub 2022 Dec 7.	Review
67	Ueda H.	創薬薬理学	Prothymosin α Plays Role as a Brain Guardian through Ecto- F1 ATPase-P2Y12 Complex and TLR4/MD2	Cells. 2023 Feb 2;12(3):496. doi: 10.3390/cells12030496.	Review
68	Shirotani K.; Hatta D.; Wakita N.; et al.	ゲノム創薬学	The role of TREM2 N- glycans in trafficking to the cell surface and signal transduction of TREM2	J Biochem. 2022 Dec 5;172(6):347- 353. doi: 10.1093/jb/mvac073.	Original Article
69	Matsuura T.; Mae M.; Ohira M.; et al.	歯周歯内治療学	The efficacy of a novel zinc-containing desensitizer CAREDYNE Shield for cervical dentin hypersensitivity: a pilot randomized controlled trial	BMC Oral Health. 2022 Jul 17;22(1):294. doi: 10.1186/s12903- 022-02324-w.	Original Article
70	Matsushima H.; Adachi T.; Hidaka M.; et al.	肝胆膵外科・肝移植外 科(第二外科)	Prognostic Impact of Relative Dose Intensity of Adjuvant Chemotherapy With S- 1 on Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Anticancer Res. 2022 Jun;42(6):3133-3141. doi: 10.21873/anticancer.15802.	Review
71	Matsushima H.; Adachi T.; Imamura H.; et al.	肝胆膵外科・肝移植外 科(第二外科)	Cytomegalovirus Graft Duodenitis Diagnosed by Transanal Double- Balloon Endoscopy Technique in an Enteric-Drained Pancreas Transplant Recipient: A Case Report	Transplant Proc. 2022 Dec;54(10):2761-2764. doi: 10.1016/j.transproceed.2022.10.037. Epub 2022 Nov 18.	Original Article
72	Matsuzaka Y.; Noguchi M.; Kanamura S.; et al.	医療教育開発センター (医科)	Combination therapy of modified electroconvulsive therapy and long-acting injectable aripiprazole for dopamine supersensitivity psychosis: a case report	Neurocase. 2022 Jun;28(3):310-313. doi: 10.1080/13554794.2022.2114838. Epub 2022 Aug 21.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
73	Matsuzaka Y.; Taniho K.; Maeda K.; et al.	医療教育開発センター (医科)	Subjective achievement from psychiatry rotation in the Japanese postgraduate residency system: a longitudinal questionnaire study	BMC Med Educ. 2022 Aug 27;22(1):646. doi: 10.1186/s12909- 022-03712-0.	Original Article
74	Matsushita Y.; Chu A.K.Y.; Tsutsumi- Arai C.; et al.	細胞生物学	The fate of early perichondrial cells in developing bones	Nat Commun. 2022 Nov 28;13(1):7319. doi: 10.1038/s41467- 022-34804-6.	Original Article
75	Matsunaga H.; Kashiwazaki Y.; Orita M.; et al.	放射線リスク制御	Risk perception of internal and external radiation exposure among administration staff affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident	J Environ Radioact. 2022 Jul;248:106869. doi: 10.1016/j.jenvrad.2022.106869. Epub 2022 Mar 29.	Letter
76	Matsui K.; Takahashi K.; Tashiro M.; et al.	感染症内科	Clinical and microbiological characteristics and challenges in diagnosing infected aneurysm: a retrospective observational study from a single center in Japan	BMC Infect Dis. 2022 Jun 30;22(1):585. doi: 10.1186/s12879- 022-07567-0.	Original Article
77	Kobayashi K.; Kidera K.; Shiraishi K.; et al.	整形外科	High risk of elevated metal concentrations with 9/10-mm stem trunnions and highly cross-linked polyethylene grafted with poly(2- methacryloyloxyethyl phosphorylcholine) in total hip arthroplasty	J Orthop Surg Res. 2023 Jan 10;18(1):24. doi: 10.1186/s13018- 023-03510-4.	Original Article
78	Komaki H.; Hamanaka R.; Tominaga J.-Y.; et al.	矯正歯科	Biomechanical features of tooth movement from a lingual appliance in comparison with a labial appliance during space closure in sliding mechanics	Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2022 Sep;162(3):307-317. doi: 10.1016/j.ajodo.2021.03.024. Epub 2022 Apr 11.	Original Article
79	Koike H.; Sueyoshi E.; Uetani M.	放射線科	Diagnosis of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension Using Quantitative Lung Perfusion Parameters Extracted From Dual- energy Computed Tomography Images	J Thorac Imaging. 2022 Jul 1;37(4):239-245. doi: 10.1097/RTI.0000000000000646. Epub 2022 Apr 11.	Original Article
80	Koike H.; Morikawa M.; Ishimaru H.; et al.	放射線科	Quantitative Chemical Exchange Saturation Transfer Imaging of Amide Proton Transfer Differentiates between Cerebellopontine Angle Schwannoma and Meningioma: Preliminary Results	Int J Mol Sci. 2022 Sep 5;23(17):10187. doi: 10.3390/ijms231710187.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Koike H.; Ashizawa K.; Tsutsui S.; et al.	放射線科	Surgically resected lung adenocarcinoma: do heterogeneous GGNs and part-solid nodules on thin-section CT show different prognosis?	Jpn J Radiol. 2023 Feb;41(2):164–171. doi: 10.1007/s11604-022-01345-3. Epub 2022 Oct 11.	Original Article
82	Koike H.; Morikawa M.; Ishimaru H.; et al.	放射線科	Amide proton transfer MRI differentiates between progressive multifocal leukoencephalopathy and malignant brain tumors: a pilot study	BMC Med Imaging. 2022 Dec 26;22(1):227. doi: 10.1186/s12880-022-00959-3.	Original Article
83	Kosai K.; Akamatsu N.; Ota K.; et al.	病態解析・診断学	BioFire FilmArray Pneumonia Panel enhances detection of pathogens and antimicrobial resistance in lower respiratory tract specimens	Ann Clin Microbiol Antimicrob. 2022 Jun 4;21(1):24. doi: 10.1186/s12941-022-00512-8.	Original Article
84	Kosai K.; Kaku N.; Horie M.; et al.	病態解析・診断学	Clinical evaluation of a fully automated and high-throughput molecular testing system for detection of influenza virus	Virol J. 2022 Nov 16;19(1):188. doi: 10.1186/s12985-022-01916-w.	Original Article
85	Koseki H.; Osaki M.; Honda Y.; et al.	保健科学	Progression of microstructural deterioration in load-bearing immobilization osteopenia	PLoS One. 2022 Nov 4;17(11):e0275439. doi: 10.1371/journal.pone.0275439. eCollection 2022.	Original Article
86	Izumo T.; Ogawa Y.; Matsuo A.; et al.	脳神経外科学	A Spontaneous Extracranial Internal Carotid Artery Dissection with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease: A Case Report and Literature Review	Medicina (Kaunas). 2022 May 20;58(5):679. doi: 10.3390/medicina58050679.	Original Article
87	Shichijo K.; Takatsuji T.	原爆・ヒバクシャ医療	Pathological observation of the effects of exposure to radioactive microparticles on experimental animals	J Radiat Res. 2022 Aug 13;63(Supplement_1):i26–i37. doi: 10.1093/jrr/rrac045.	Review
88	Yamanashi H.; Akabame S.; Miyata J.; et al.	総合診療学	Association between Epstein-Barr virus serological reactivation and psychological distress: a cross-sectional study of Japanese community-dwelling older adults	Aging (Albany NY). 2022 Oct 21;14(20):8258–8269. doi: 10.18632/aging.204345. Epub 2022 Oct 21.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
89	Yamamoto K.; Hosogaya N.; Inoue T.; et al.	呼吸器内科	Efficacy of Lactococcus lactis strain plasma (LC- Plasma) in easing symptoms in patients with mild COVID-19: Protocol for an exploratory, multicentre, double- blinded, randomised controlled trial (PLATEAU study)	BMJ Open. 2022 Sep 14;12(9):e061172. doi: 10.1136/bmjopen-2022-061172.	Original Article
90	Yamamoto K.; Miyamoto K.; Ueno M.; et al.	医薬品合成化学	Copper-Catalyzed Asymmetric Sulfonylative Desymmetrization of Glycerol	Molecules. 2022 Dec 18;27(24):9025. doi: 10.3390/molecules27249025.	Original Article
91	Yamanouchi K.; Kuba S.; Matsumoto M.; et al.	移植・消化器外科学	An Evaluation of the Efficacy of Compression Therapy Using Sleeves and Stockings to Prevent Docetaxel-induced Peripheral Neuropathy in Breast Cancer Patients	Acta Med Okayama. 2022 Dec;76(6):689-694. doi: 10.18926/AMO/64119.	Original Article
92	Yamaguchi Y.; Kadowaki T.; Aibara N.; et al.	歯科薬理学	Coronin1C Is a GDP- Specific Rab44 Effector That Controls Osteoclast Formation by Regulating Cell Motility in Macrophages	Int J Mol Sci. 2022 Jun 14;23(12):6619. doi: 10.3390/ijms23126619.	Original Article
93	Yamashita S.	原子力災害対策戦略 本部	Always embracing new challenges in my life from Nagasaki onward	Endocr J. 2023;70(2):129-134. doi: 10.1507/endocrj.RMK70-2. 出版年月日:2023年2月28日	Original Article
94	Mikame Y.; Sakai Y.; Tahara R.; et al.	機能性分子化学	Synthesis and Evaluation of Oligonucleotide- Containing 2'-O- [[[4,5',8- Trimethylpsoralen)-4'- ylmethoxy]ethylaminoc arb-onyl]adenosine as Photo-crosslinkable Gene Targeting Tools	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2022 Oct 1;70(10):726-730. doi: 10.1248/cpb.c22-00333. Epub 2022 Jul 28.	Original Article
95	Sakamoto H.; Ando K.; Imaizumi Y.; et al.	血液内科	Alvocidib inhibits IRF4 expression via super- enhancer suppression and adult T-cell leukemia/lymphoma cell growth	Cancer Sci. 2022 Dec;113(12):4092- 4103. doi: 10.1111/cas.15550. Epub 2022 Oct 3.	Original Article
96	Sasaki R.; Fukushima M.; Haraguchi M.; et al.	消化器内科	Impact of lenvatinib on renal function compared to sorafenib for unresectable hepatocellular carcinoma	Medicine (Baltimore). 2022 May 13;101(19):e29289. doi: 10.1097/MD.00000000000029289.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
97	Imamura Y.; Suzuki K.; Saijo H.; et al.	形成外科	Longitudinal physiological remoulding of lower limb skin as a cause of diabetic foot ulcer: a histopathological examination	J Wound Care. 2022 Aug 1;31(Sup8):S29-S35. doi: 10.12968/jowc.2022.31.Sup8.S29.	Original Article
98	Imamura H.; Adachi T.; Tanaka T.; et al.	肝胆膵外科・肝移植外科(第二外科)	Recurrent Cytomegalovirus Infection Controlled by the Introduction of Everolimus in a Simultaneous Pancreas-Kidney Transplantation Recipient: A Case Report	Transplant Proc. 2022 Jul-Aug;54(6):1615-1617. doi: 10.1016/j.transproceed.2022.05.009. Epub 2022 Jul 30.	Original Article
99	Imaizumi Y.; Iwanaga M.; Nosaka K.; et al.	原爆・ヒバクシャ医療	Validation of the iATL-PI prognostic index in therapeutic decision-making for patients with smoldering and chronic ATL: a multicenter study	Int J Hematol. 2023 Feb;117(2):206-215. doi: 10.1007/s12185-022-03473-y. Epub 2022 Oct 29.	Original Article
100	Kuroshima S.; Al-Omari F.A.; Sasaki M.; et al.	口腔インプラント学	Medication-related osteonecrosis of the jaw: A literature review and update	Genesis. 2022 Sep;60(8-9):e23500. doi: 10.1002/dvg.23500. Epub 2022 Sep 15.	Review
101	Takamatsu Y.; Yoshikawa T.; Kurosu T.; et al.	病原体解析	Role of VP30 Phosphorylation in Ebola Virus Nucleocapsid Assembly and Transport	J Virol. 2022 Sep 14;96(17):e0108322. doi: 10.1128/jvi.01083-22. Epub 2022 Aug 22.	Original Article
102	Takazono T.; Hidaka Y.; Morimoto S.; et al.	臨床感染症学	Comparison of liposomal amphotericin B alone and in combination with flucytosine in the treatment of non-HIV Cryptococcal meningitis: A nationwide observational study	Mycoses. 2022 Sep;65(9):897-902. doi: 10.1111/myc.13493. Epub 2022 Jul 25.	Original Article
103	Mukai H.; Ogawa K.; Kato N.; et al.	医薬品情報学	Recent advances in lipid nanoparticles for delivery of nucleic acid, mRNA, and gene editing-based therapeutics	Drug Metab Pharmacokinet. 2022 Jun;44:100450. doi: 10.1016/j.dmpk.2022.100450. Epub 2022 Feb 5.	Review
104	Koga T.; Umeda M.; Yoshida N.; et al.	リウマチ・膠原病内科	Inhibition of calcium/calmodulin-dependent protein kinase IV in arthritis: dual effect on Th17 cell activation and osteoclastogenesis	Rheumatology (Oxford). 2023 Feb 1;62(2):861-871. doi: 10.1093/rheumatology/keac381.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
105	Koga T.; Kawakami A.	リウマチ・膠原病内科	Interleukin-6 inhibition in the treatment of autoinflammatory diseases	Front Immunol. 2022 Jul 26;13:956795. doi: 10.3389/fimmu.2022.956795. eCollection 2022.	Review
106	Koga T.; Sato S.; Hagimori N.; et al.	リウマチ・膠原病内科	A randomised, double-blind, placebo-controlled phase III trial on the efficacy and safety of tocilizumab in patients with familial Mediterranean fever	Clin Exp Rheumatol. 2022 Sep;40(8):1535-1542. doi: 10.55563/clinexprheumatol/fgx9vv. Epub 2022 Sep 14.	Original Article
107	Tsurumoto T.; Endo D.; Saiki K.; et al.	肉眼解剖学	Cross-sectional geometry of the femoral diaphyseal cortical bones: analysis of central mass distribution	Anat Sci Int. 2023 Jan;98(1):77-88. doi: 10.1007/s12565-022-00676-5. Epub 2022 Jun 19.	Original Article
108	Mitate E.; Inoue K.; Sato R.; et al.	口腔外科	Application of the sliding window method and Mask-RCNN method to nuclear recognition in oral cytology	Diagn Pathol. 2022 Aug 2;17(1):62. doi: 10.1186/s13000-022-01245-0.	Original Article
109	Mukae H.; Yotsuyanagi H.; Ohmagari N.; et al.	呼吸器内科学	A Randomized Phase 2/3 Study of Ensitrelvir, a Novel Oral SARS-CoV-2 3C-Like Protease Inhibitor, in Japanese Patients with Mild-to-Moderate COVID-19 or Asymptomatic SARS-CoV-2 Infection: Results of the Phase 2a Part	Antimicrob Agents Chemother. 2022 Oct 18;66(10):e0069722. doi: 10.1128/aac.00697-22. Epub 2022 Sep 13.	Original Article
110	Kanamoto T.; Tateishi Y.; Yamashita K.; et al.	脳神経内科	Impact of width of susceptibility vessel sign on recanalization following endovascular therapy	J Neurol Sci. 2023 Mar 15;446:120583. doi: 10.1016/j.jns.2023.120583. Epub 2023 Feb 12.	Original Article
111	Kondo Y.; Ohara K.; Fujii R.; et al.	総合歯科臨床教育学	Transposon mutagenesis and genome sequencing identify two novel, tandem genes involved in the colony spreading of Flavobacterium collinsii, isolated from an ayu fish, Plecoglossus altivelis	Front Cell Infect Microbiol. 2023 Feb 10;13:1095919. doi: 10.3389/fcimb.2023.1095919. eCollection 2023.	Original Article
112	Miyata J.; Eshak E.S.; Yoshioka T.; et al.	離島・へき地医療学講座	Movement of the superior mesenteric artery in patients with superior mesenteric artery syndrome: A case-reference study	Clin Anat. 2022 Oct;35(7):891-898. doi: 10.1002/ca.23885. Epub 2022 Apr 22.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
113	Miyazaki Y.; Kiguchi T.; Sato S.; et al.	原爆・ヒバクシャ医療	Prospective comparison of 5- and 7-day administration of azacitidine for myelodysplastic syndromes: a JALSG MDS212 trial	Int J Hematol. 2022 Aug;116(2):228-238. doi: 10.1007/s12185-022-03347-3. Epub 2022 May 4.	Original Article
114	Kuba S.; Maeda S.; Minami S.; et al.	移植・消化器外科学	Prognosis of asymptomatic versus symptomatic metastatic breast cancer: a multicenter retrospective study	Sci Rep. 2022 Aug 18;12(1):14059. doi: 10.1038/s41598-022-18069-z.	Original Article
115	Kubo Y.; Yasui K.; Izumida M.; et al.	臨床研究	IDO1, FAT10, IFI6, and GILT Are Involved in the Antiretroviral Activity of γ -Interferon and IDO1 Restricts Retrovirus Infection by Autophagy Enhancement	Cells. 2022 Jul 19;11(14):2240. doi: 10.3390/cells11142240.	Original Article
116	Hisatomi K.; Miura T.; Obase K.; et al.	心臓血管外科	Minimally Invasive Valvular Surgery in the Elderly – Safety, Early Recovery, and Long-Term Outcomes –	Circ J. 2022 Oct 25;86(11):1725-1732. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0338. Epub 2022 Oct 5.	Original Article
117	Iwamoto N.; Araki T.; Umetsu A.; et al.	リウマチ・膠原病内科学	The Association of Increase of Human T-Cell Leukemia Virus Type-1 (HTLV-1) Proviral Load (PVL) With Infection in HTLV-1-Positive Patients With Rheumatoid Arthritis: A Longitudinal Analysis of Changes in HTLV-1 PVLs in a Single Center Cohort Study	Front Immunol. 2022 May 6;13:887783. doi: 10.3389/fimmu.2022.887783. eCollection 2022.	Original Article
118	Iwamoto N.; Kawakami A.	リウマチ・膠原病内科学	The monocyte-to-osteoclast transition in rheumatoid arthritis: Recent findings	Front Immunol. 2022 Sep 12;13:998554. doi: 10.3389/fimmu.2022.998554. eCollection 2022.	Review
119	Iwamoto N.; Chiba K.; Sato S.; et al.	リウマチ・膠原病内科学	Inhibition of bone erosion, determined by high-resolution peripheral quantitative computed tomography (HR-pQCT), in rheumatoid arthritis patients receiving a conventional synthetic disease-modifying anti-rheumatic drug (csDMARD) plus denosumab vs csDMARD therapy alone: an open-label, randomized, parallel-group study	Arthritis Res Ther. 2022 Dec 7;24(1):264. doi: 10.1186/s13075-022-02957-w.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
120	Iwanaga A.; Murota H.	皮膚病態学	Author reply to comment on “Clinical practice guidelines for pseudoxanthoma elasticum (2017)”: The importance of mutation analysis	J Dermatol. 2022 Jul;49(7):e250. doi: 10.1111/1346-8138.16379. Epub 2022 Apr 8.	Letter
121	Kishikawa N.; El-Maghrabey M.; Tobo M.; et al.	薬品分析化学	A Comparative Study on the Reduction Modes for Quinone to Determine Ubiquinone by HPLC with Luminol Chemiluminescence Detection Based on the Redox Reaction	Molecules. 2022 Dec 22;28(1):96. doi: 10.3390/molecules28010096.	Original Article
122	Kishikawa N.; El-Maghrabey M.; Kawamoto A.; et al.	薬品分析化学	Determination of Anthraquinone-Tagged Amines Using High-Performance Liquid Chromatography with Online UV Irradiation and Luminol Chemiluminescence Detection	Molecules. 2023 Feb 24;28(5):2146. doi: 10.3390/molecules28052146.	Original Article
123	Kashiyama K.; Yano H.; Imamura Y.	形成再建外科学	Rotation Advancement Distraction Osteogenesis Technique is Attributed to Unilateral Lambdoid Synostosis and is Used to Correct Posterior Plagiocephaly	J Craniofac Surg. 2022 Nov-Dec 01;33(8):e880-e883. doi: 10.1097/SCS.00000000000008828. Epub 2022 Aug 10.	Original Article
124	Kashiyama K.; Yoshida K.; Iida R.	形成再建外科学	Surgical Treatment of Ossified Cephalhematoma in Young Child	J Craniofac Surg. 2023 Jan-Feb 01;34(1):e57-e59. doi: 10.1097/SCS.00000000000008981. Epub 2022 Aug 29.	Original Article
125	Minakawa N.; Kawada H.; Kongere J.O.; et al.	環境医学	Effectiveness of screened ceilings over the current best practice in reducing malaria prevalence in western Kenya: a cluster randomized-controlled trial	Parasitology. 2022 Apr 19;149(7):1-39. doi: 10.1017/S0031182022000415. Online ahead of print.	Original Article
126	Kaida K.; Kubo S.; Egoshi T.; et al.	歯科補綴学	Eight-year clinical evaluation of two types of resin composite in non-carious cervical lesions	Clin Oral Investig. 2022 Oct;26(10):6327-6337. doi: 10.1007/s00784-022-04587-7. Epub 2022 Jun 25.	Original Article
127	Kaku N.; Sasaki D.; Ota K.; et al.	臨床検査科	Changing molecular epidemiology and characteristics of MRSA isolated from bloodstream infections: nationwide surveillance in Japan in 2019	J Antimicrob Chemother. 2022 Jul 28;77(8):2130-2141. doi: 10.1093/jac/dkac154.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
128	Kaku N.; Urabe T.; Iida T.; et al.	臨床検査科	Gargle sample is an effective option in a novel fully automated molecular point-of-care test for influenza: a multicenter study	Virol J. 2023 Mar 3;20(1):41. doi: 10.1186/s12985-023-01993-5.	Original Article
129	Kohno S.; Izumikawa K.; Takazono T.; et al.	課長・事務長等以上、 補佐、専門	Efficacy and safety of isavuconazole against deep-seated mycoses: A phase 3, randomized, open-label study in Japan	J Infect Chemother. 2023 Feb;29(2):163-170. doi: 10.1016/j.jiac.2022.10.010. Epub 2022 Oct 25.	Original Article
130	Kawano H.; Motokawa T.; Kurohama H.; et al.	循環器内科学	Fulminant Myocarditis 24 Days after Coronavirus Disease Messenger Ribonucleic Acid Vaccination	Intern Med. 2022 Aug 1;61(15):2319-2325. doi: 10.2169/internalmedicine.9800-22. Epub 2022 May 31.	Original Article
131	Kawano H.; Kawamura K.; Ishijima M.; et al.	循環器内科学	Pathological features of biopsied myocardium in patients clinically diagnosed with peripartum cardiomyopathy	Med Mol Morphol. 2023 Mar;56(1):58-68. doi: 10.1007/s00795-022-00340-x. Epub 2022 Nov 8.	Original Article
132	Kato T.; Imaizumi Y.; Miyazaki Y.	血液内科	Nationwide Hospital-Based Survey of Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma in Japan	Viruses. 2022 Apr 11;14(4):791. doi: 10.3390/v14040791.	Review
133	Kato K.; Tachibana H.	環境医学	Identification of Multiple Domains of Entamoeba histolytica Intermediate Subunit Lectin-1 with Hemolytic and Cytotoxic Activities	Int J Mol Sci. 2022 Jul 12;23(14):7700. doi: 10.3390/ijms23147700.	Original Article
134	Endo D.; Saiki K.; Yoneda M.; et al.	カダバーサージカルト レーニングセンター	Application of Methods for a Morphological Analysis of the Femoral Diaphysis Based on Clinical CT Images to Prehistoric Human Bone: Comparison of Modern Japanese and Jomon Populations from Hagi Cave, Oita, Japan	Biomed Res Int. 2022 Jun 7;2022:2069063. doi: 10.1155/2022/2069063. eCollection 2022.	Original Article
135	Nagata Y.; Kageyama S.; Ishikawa T.; et al.	地域医療学	Prognostic significance of NY-ESO-1 antigen and PIGR expression in esophageal tumors of CHP-NY-ESO-1-vaccinated patients as adjuvant therapy	Cancer Immunol Immunother. 2022 Nov;71(11):2743-2755. doi: 10.1007/s00262-022-03194-5. Epub 2022 Apr 16.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
136	Nagayama Y.; Nishihara E.	細胞機能解析	Thyrotropin receptor antagonists and inverse agonists, and their potential application to thyroid diseases	Endocr J. 2022 Nov 28;69(11):1285–1293. doi: 10.1507/endocrj.EJ22–0391. Epub 2022 Sep 27.	Review
137	Nagahashi-Araki M.; Tasaka M.; Takamura T.; et al.	リプロダクティブヘルス	Endogenous oxytocin levels in extracted saliva elevates during breastfeeding correlated with lower postpartum anxiety in primiparous mothers	BMC Pregnancy Childbirth. 2022 Sep 17;22(1):711. doi: 10.1186/s12884–022–05026–x.	Original Article
138	Ito H.; Wada T.; Ichinose G.; et al.	環境医学	Social dilemma in the excess use of antimicrobials incurring antimicrobial resistance	Sci Rep. 2022 Dec 6;12(1):21084. doi: 10.1038/s41598–022–25632–1.	Original Article
139	Abiko Y.; Taguchi K.; Hisamori M.; et al.	衛生化学	Redox Homeostasis is Disturbed by Redox Cycling between Reactive Cysteines of Thioredoxin 1 and 9,10-Phenanthrenequinone, an Atmospheric Electron Acceptor	Chem Res Toxicol. 2022 Aug 15;35(8):1425–1432. doi: 10.1021/acs.chemrestox.2c00174. Epub 2022 Jul 21.	Original Article
140	Abiru N.; Shoji S.; Kosakai Y.; et al.	リウマチ・膠原病内科学	Demographic and clinical characteristics of patients with type 1 diabetes mellitus initiating sodium–glucose cotransporter 2 inhibitors in Japan: A real-world administrative database analysis	Diabetes Res Clin Pract. 2022 Aug;190:109973. doi: 10.1016/j.diabres.2022.109973. Epub 2022 Jun 26.	Original Article
141	Ngwe Tun M.M.; Luvai E.; Nwe K.M.; et al.	病原体解析	Anti-SARS-CoV-2 activity of various PET-bottled Japanese green teas and tea compounds in vitro	Arch Virol. 2022 Jul;167(7):1547–1557. doi: 10.1007/s00705–022–05483–x. Epub 2022 May 24.	Original Article
142	Dhoubhadel B.G.; Suzuki M.; Ishifuji T.; et al.	臨床研究	High prevalence of multiple serotypes of pneumococci in patients with pneumonia and their associated risk factors	Thorax. 2022 Apr 26;77(11):1121–30. doi: 10.1136/thoraxjnl–2021–217979. Online ahead of print.	Original Article
143	Dhoubhadel B.G.; Morimoto K.	臨床研究	Prevention of pneumococcal diseases: the challenge remains	Lancet Glob Health. 2022 Oct;10(10):e1375–e1376. doi: 10.1016/S2214–109X(22)00374–6.	Original Article

[計143件](#)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	-----------------------	----	---------------	------

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 ヘルシンキ宣言その他研究等の領域に則した倫理に関する指針等の趣旨に沿った倫理的配慮を諮ることを目的とし、新規申請に係る手続き・臨床研究実施中及び終了時の手続き等について記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 長崎大学及び長崎大学病院には以下の指針や規程が存在する。 「長崎大学利益相反マネジメントポリシー」 「長崎大学における臨床研究に係る利益相反ポリシー」 「長崎大学における臨床研究に係る利益相反管理指針」 「長崎大学病院利益相反審査委員会規程」 臨床研究利益相反審査委員会は「利益相反審査自己申告書」により利益相反の管理を行う。申告書により利益相反があきらかな場合、利益相反審査委員会は、申告書に添付された臨床研究	

実施計画書に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかについて審議し、当事者への助言・指導・勧告等を行う。なお、審議に際し、関係する各倫理委員会又は治験審査委員会の意見を聴取することができる。また、必要に応じて更なる情報収集・調査及びフォローアップを行う。（「長崎大学における臨床研究に係る利益相反管理指針」より）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 7 回
・研修の主な内容 ○臨床研究に関する研修会 2 7 回 （内訳：オンライン研修会 2 6 回、ワークショップ 1 回）） 内容 ○倫理指針・臨床研究法の一部改正について ○臨床研究における企業との契約締結時 の留意点 - 最近の話題も含めて ○医師主導治験・特定臨床研究の実施 ～逸脱（不適合）・安全性情報の取り扱い～ ○臨床研究データの信頼性確保のために - 監査時の事例から学ぶ、モニタリングについて ○研究者ができる臨床研究データマネジメント ○研究の記録と文書保管について ○適切な研究実施のために知っておくべきこと 等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

長崎大学病院では、日本専門医機構に準ずる基本 19 領域のうちリハビリテーション科を除く 18 領域のプログラムがあり、県内外の関連病院、海外の拠点病院と連携して、高度専門医療を研修できるシステムを構築している。

大学病院連携型高度医療人養成推進事業により発足した医師育成キャリア支援室では、これまで個人で専門医の資格を取るために行っていたことを、大学病院が全面的にサポートし、できるだけ短期間で効率よく専門医資格を修得できるよう、専門のコーディネーターによる支援を行っている。

歯科においては、1年の初期臨床研修に引き続き専門歯科医師の養成、地域歯科医療のリーダー育成および高齢者や有病者における全身管理を実践できる歯科医師の養成を目的として、後期臨床研修を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	83 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
川上 純	リウマチ・膠原病内科	教授	38 年	
阿比留 教生	内分泌・代謝内科	教授	32 年	
辻野 彰	脳神経内科	教授	34 年	
迎 寛	呼吸器内科	教授	38 年	
西野 友哉	腎臓内科	教授	26 年	
中尾 一彦	消化器内科	教授	40 年	
前村 浩二	循環器内科	教授	37 年	
宮崎 泰司	血液内科	教授	37 年	
有吉 紅也	感染症内科	教授	37 年	
森内 浩幸	小児科	教授	39 年	
室田 浩之	皮膚科・アレルギー科	教授	27 年	
小澤 寛樹	精神科神経科	教授	38 年	
永安 武	呼吸器外科	教授	36 年	
江口 晋	肝胆膵外科・肝移植外科	教授	31 年	
三浦 崇	心臓血管外科	教授	23 年	
尾崎 誠	整形外科	教授	32 年	
三浦 清徳	産科婦人科	教授	28 年	
北岡 隆	眼科	教授	40 年	
熊井 良彦	耳鼻咽喉科	教授	24 年	
宮田 康好	泌尿器科・腎移植外科	教授	30 年	
松尾 孝之	脳神経外科	教授	34 年	

上谷 雅孝	放射線科	教授	42年	
原 哲也	麻酔科	教授	31年	
岡野 慎士	病理診断科	教授	30年	
柳原 克紀	検査部	教授	32年	
田崎 修	救急科	教授	33年	
田中 克己	形成外科	教授	39年	
前田 隆浩	総合診療科	教授	38年	
鵜飼 孝	歯科	教授	31年	
中尾 一彦	小児歯科	教授	40年	
吉田 教明	矯正歯科	教授	37年	
澤瀬 隆	歯科口腔外科	教授	34年	
鮎瀬 卓郎	歯科口腔外科	教授	39年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（輸液ポンプ、シリンジポンプ） ・研修の期間・実施回数 2022年4月7日・1回 ・研修の参加人数 150名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（胆管結石破碎用装置、胆管鏡） ・研修の期間・実施回数 2022年6月15日・1回 ・研修の参加人数 4名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（着用型自動除細動器(WCD)） ・研修の期間・実施回数 2022年6月14日、24日・2回 ・研修の参加人数 13名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（植込み型補助人工心臓 Heart MateⅢ） ・研修の期間・実施回数 2022年7月13日・1回 ・研修の参加人数 17名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（除細動装置） ・研修の期間・実施回数 2022年7月27日・1回 ・研修の参加人数 15名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（人工呼吸器 Servo-u） ・研修の期間・実施回数 2022年7月28日、8月9日・2回 ・研修の参加人数 11名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（ECMO装置） ・研修の期間・実施回数 2022年9月29日・1回 ・研修の参加人数 15名

・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（輸液ポンプ、シリンジポンプ） ・研修の期間・実施回数 2022年10月3日・1回 ・研修の参加人数 151名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（血液浄化装置） ・研修の期間・実施回数 2022年10月11日・1回 ・研修の参加人数 9名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（補助循環装置） ・研修の期間・実施回数 2022年10月19日・1回 ・研修の参加人数 19名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（植込み型補助人工心臓 Heart MateⅢ） ・研修の期間・実施回数 2022年12月7日・1回 ・研修の参加人数 13名
・研修の主な内容 医療機器の操作・管理研修（人工呼吸器 Servo-u） ・研修の期間・実施回数 2022年12月5日、6日、7日・3回 ・研修の参加人数 21名
・研修の主な内容 医療安全研修会 eラーニング ・研修の期間・実施回数 2022年11月14日～2022年12月16日 ・研修の参加人数 全職員対象 2493名
・研修の主な内容 各病棟看護師スタッフ等への研修講義 ・研修の期間・実施回数 2022年10月20日、12月2日、2023年2月27日・3回 ・研修の参加人数 5名、8名、12名
・研修の主な内容 長崎大学病院 緩和ケア研修会 ・研修の期間・実施回数 : 2022年9月11日、2023年2月4日・2回 ・研修の参加人数 32名、27名

・研修の主な内容 看護師特定行為研修 臨床薬理学講義 ・研修の期間・実施回数 2022 年 9 月 26 日～9 月 30 日 ・研修の参加人数 10 名
・研修の主な内容 糖尿病ケアサポートチーム・多職種レクチャー ・研修の期間・実施回数 2022 年 11 月 18 日・1 回 ・研修の参加人数 30 名
・研修の主な内容 NST 学習会 ・研修の期間・実施回数 2022 年 11 月 22 日・1 回 ・研修の参加人数 30 名
・研修の主な内容 看護師専門コース 臨床薬理学講義 ・研修の期間・実施回数 2022 年 10 月 20 日・1 回 ・研修の参加人数 5 名
看護研修については、別紙「令和 4 年度看護部継続教育一覧」および「令和 4 年度看護補助者研修会」のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（人工呼吸器 前期） ・研修の期間・実施回数 2022年5月25日・1回 ・研修の参加人数 125名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（閉鎖式保育器 前期） ・研修の期間・実施回数 2022年6月16日・1回 ・研修の参加人数 54名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（血液浄化装置 前期） ・研修の期間・実施回数 2022年7月27日・1回 ・研修の参加人数 118名

・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（除細動装置 前期） ・研修の期間・実施回数 2022年8月1日・1回 ・研修の参加人数 117名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（人工心肺装置及び補助循環装置 前期） ・研修の期間・実施回数 2022年8月30日・1回 ・研修の参加人数 118名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（診療用高エネルギー発生装置 前期） ・研修の期間・実施回数 2022年8月19日・1回 ・研修の参加人数 7名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（診療用放射線照射装置 前期） ・研修の期間・実施回数 2022年8月18日・1回 ・研修の参加人数 7名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（人工呼吸器 後期） ・研修の期間・実施回数 2022年10月27日・1回 ・研修の参加人数 144名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（閉鎖式保育器 後期） ・研修の期間・実施回数 2022年12月13日・1回 ・研修の参加人数 140名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（血液浄化装置 前期） ・研修の期間・実施回数 2023年1月27日・1回 ・研修の参加人数 84名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（除細動装置 前期） ・研修の期間・実施回数 2023年2月1日・1回 ・研修の参加人数 55名

・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（人工心肺装置及び補助循環装置 後期） ・研修の期間・実施回数 2023年3月1日・1回 ・研修の参加人数 67名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（診療用高エネルギー発生装置 後期） ・研修の期間・実施回数 2023年3月9日・1回 ・研修の参加人数 9名
・研修の主な内容 特定機能病院における定期研修（診療用放射線照射装置 後期） ・研修の期間・実施回数 2023年3月9日・1回 ・研修の参加人数 9名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（光源装置 Aladuck405） ・研修の期間・実施回数 2022年4月26日・1回 ・研修の参加人数 8名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（半導体レーザー オサダライトサージスクエア5M） ・研修の期間・実施回数 2022年6月15日・1回 ・研修の参加人数 7名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（眼科用 PDT レーザー XLVIRAPDT） ・研修の期間・実施回数 2022年7月27日・1回 ・研修の参加人数 4名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（オージオメータ AURICAL AUd） ・研修の期間・実施回数 2022年7月29日・1回 ・研修の参加人数 2名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（搬送用保育器 インキュアーチ） ・研修の期間・実施回数 2022年8月19日・1回 ・研修の参加人数 18名

・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（移動型デジタル式汎用X線透視診断装置） ・研修の期間・実施回数 2022年8月30日・1回 ・研修の参加人数 19名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（汎用超音波画像診断装置 miruco） ・研修の期間・実施回数 2022年8月25日・1回 ・研修の参加人数 6名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（光学式眼軸長測定装置 OA-2000） ・研修の期間・実施回数 2022年8月24日・1回 ・研修の参加人数 10名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（経頭蓋治療用磁気刺激装置 NeuroStar） ・研修の期間・実施回数 2022年9月9日、12日、13日・3回 ・研修の参加人数 25名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（全自動遺伝子解析装置 QGSM-401o） ・研修の期間・実施回数 2022年9月14日・1回 ・研修の参加人数 7名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（X線C T透視システム Aquilion One） ・研修の期間・実施回数 2022年10月7日・1回 ・研修の参加人数 18名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（炭酸ガスレーザー オペレーターLite+） ・研修の期間・実施回数 2022年11月14日、17日、12月23日・3回 ・研修の参加人数 24名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（全身用PET・CT 検査装置 Cartesion Prime） ・研修の期間・実施回数 2022年11月16日、17日、18日・3回 ・研修の参加人数 8名

・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（X線TV装置 Astorex i9） ・研修の期間・実施回数 2023年1月27日・1回 ・研修の参加人数 26 名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（X線TVシステム ES3-AR ASTX-I9000/J2） ・研修の期間・実施回数 2023年1月25日、27日、30日・3回 ・研修の参加人数 33 名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（聴覚誘発反応測定装置 ES3-AR） ・研修の期間・実施回数 2023年2月15日・1回 ・研修の参加人数 3 名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（観血血圧モニタ用プログラム） ・研修の期間・実施回数 2023年2月28日・1回 ・研修の参加人数 8 名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（治療計画 CT 装置 Aquilion Exced LB） ・研修の期間・実施回数 2023年3月3日・1回 ・研修の参加人数 16 名
・研修の主な内容 新しい医療機器の導入時の研修（FPD 搭載血管造影装置 INFX-8000C） ・研修の期間・実施回数 2023年3月23日、28日、29日・3回 ・研修の参加人数 34 名
・研修の主な内容 新採用薬剤師研修プログラム ・研修の期間・実施回数 6ヶ月（調剤業務48回，注射薬室業務30回，抗癌剤調製6-8回，麻薬業務2回） ・研修の参加人数 5名（勤務1年目 の薬剤師）
・研修の主な内容 薬剤管理指導業務研修 ・研修の期間・実施回数 6ヶ月、週2時間・1回

・研修の参加人数 5名（勤務1年目 の薬剤師）
・研修の主な内容 休日TDM測定業務研修 ・研修の期間・実施回数 2ヶ月間、3回 ・研修の参加人数 5名（勤務2年目の薬剤師）
・研修の主な内容 昇任者研修 ・研修の期間・実施回数 2023年3月9日～10日・1回 ・研修の参加人数 5名（看護師長）
・研修の主な内容 昇任者研修 ・研修の期間・実施回数 2023年3月9日～3月10日・1回 ・研修の参加人数 8名（副看護師長）
・研修の主な内容 看護管理者研修 ・研修の期間・実施回数 2022年10月20日、2023年1月17日、3月17日・3回 ・研修の参加人数 38名（看護師長）
・研修の主な内容 看護職員向け看護補助者に関わる研修 ・研修の期間・実施回数 2022年6月1日～8月25日・1回 ・研修の参加人数 885名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

（注）1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

令和4年度 看護部継続教育一覧

研修会名		研修 日数	研修 回数	開催日	テーマ/ねらい	講師、担当者	運営担当	院内参加者数（名）	時間（分）
新採用者 オリエンテーション	看護部オリエンテーション	1	1	4月1日	看護部概要	看護部長	看護キャリア支援室	68	30
		1	1		協会・連盟・賠償責任保険について	人事担当副看護部長	看護キャリア支援室	68	15
	病院オリエンテーション	1	1		労務関係～就業規則・就業情報管理システムを中心に～	人事企画課主査	看護キャリア支援室	68	30
	看護部オリエンテーション	1	1		教育体制について	教育担当副看護部長	看護キャリア支援室	68	45
		1	1		生涯学習記録ファイル・評価表・提出物の説明	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	20
	情報管理	1	1		個人情報保護	医療情報部医師	看護キャリア支援室	68	60
	看護師として必要な基本姿勢と態度	1	1	4月4日	社会人としての心構え	安全担当副看護部長	看護キャリア支援室	67	50
		1	1		Fish！哲学について	安全担当副看護部長	看護キャリア支援室	67	45
		1	1		オンライン講義(ZOOM): 接遇研修	担当事業所 医療教育開発センター	看護キャリア支援室	67	60
	看護部オリエンテーション	1	1		看護提供方式について	看護部長	看護キャリア支援室	67	30
	情報管理	1	1		看護記録について	医療情報部看護部長	看護キャリア支援室	68	60
	与薬の技術	1	1		輸血管理	細胞療法部医師	看護キャリア支援室	68	90
	安全管理・災害・防災管理	1	1		eラーニング: 防災設備・医療ガスについて	施設部施設管理課	看護キャリア支援室	68	30
	看護部オリエンテーション	1	1		学研メディカルサポートについて	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	40
	感染予防	1	1		感染管理総論	感染制御教育センター看護部長	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	68	30
		1	1		感染管理各論	感染制御教育センター医師	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	68	30
		1	1		感染管理演習	感染制御教育センター副センター長	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	68	90
	安全管理	1	1		医薬品管理各論	薬剤部准教授副薬剤部長	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	68	30
		1	1		医療機器管理総論・各論	ME機器センター副センター長	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	68	25
		1	1		医療安全総論	安全管理部看護部長	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	68	30
		1	1		医療安全演習	安全管理部部長	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	68	90
	ワークショップ	1	1		チーム医療	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	68	90
	安全管理	1	1	4月6日	医療安全（転倒転落アセスメント、身体抑制、口頭指示など）	安全管理部看護部長	看護キャリア支援室	68	60
		1	1		DVD学習「みんなで考えよう医療事故防止対策！」	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	50
	与薬の技術（安全管理）	1	1		静脈注射と法的責任	安全管理部看護部長	看護キャリア支援室	68	30
	与薬の技術（感染管理）	1	1		静脈注射と感染管理	感染制御教育センター看護部長	看護キャリア支援室	68	30
	与薬の技術（薬剤管理）	1	1		薬剤の基礎知識	薬剤部准教授副薬剤部長	看護キャリア支援室	68	45
	静脈注射	1	1		テスト・薬剤の基礎知識、安全管理、感染管理	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	66	30
	与薬の技術	1	1		与薬管理	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	66	20
		1	1		麻薬管理	薬剤部麻薬管理室室長	看護キャリア支援室	66	45
	安全管理	1	1		患者誤認防止について	安全管理部看護部長	看護キャリア支援室	66	60
	採血の技術	1	1		採血の基礎知識	検査部 主任臨床検査技師	看護キャリア支援室	66	45
	症状・生体機能管理技術	1	4	4月7日	輸液ポンプ（FP-N15）と輸液管理	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	67	110
	症状・生体機能管理技術	1	4		シリンジポンプ	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	67	110
	採血の技術	1	4		採血	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	67	110
	情報管理	1	4		電子カルテ操作研修	医療情報部、 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	67	110
	部署内研修	2	1	4月10日 4月11日	部署内研修	第1クール配属部署	看護キャリア支援室	68	
	物品管理	1	1	4月12日	SPDについて	SPDセンター	看護キャリア支援室	68	30
	症状・生体機能管理技術	1	1		フィジカルアセスメント（呼吸・循環）	集中ケア看護認定看護師	看護キャリア支援室	68	150
	看護部オリエンテーション	1	1		社会人基礎力について	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	20
	症状・生体機能管理技術	1	1		インスリン療法・血糖自己測定	糖尿病看護認定看護師 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	120
	組織における役割/心構えの理解と適切な行動	1	1		スタートアップ研修～入職後1年後の目標設定～	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	60
	組織における役割	1	1	4月25日	地域医療連携センター・MSCIについて	地域医療連携センター看護部長	看護キャリア支援室	68	60
	症状・生体機能管理技術	1	1		モニター・アラームについて	医療機器担当者	看護キャリア支援室	68	30
	組織における役割/心構えの理解と適切な行動	1	1		専門看護師・認定看護師活動について	専門看護師・認定看護師会委員長	看護キャリア支援室	68	45
	組織における役割/心構えの理解と適切な行動	1	1		院内認定看護師活動について	院内認定看護師管理委員会委員長	看護キャリア支援室	68	45
	組織における役割/心構えの理解と適切な行動	1	1		緩和ケアについて	緩和ケアセンター看護部長	看護キャリア支援室	68	45
	組織における役割/心構えの理解と適切な行動	1	1		看護倫理の基礎知識	専門看護師・認定看護師会委員長	看護キャリア支援室	68	60
	看護職員としての自覚と責任ある行動	1	1		特定看護師活動について	特定行為研修室看護部長	看護キャリア支援室	68	45
	組織における役割/心構えの理解と適切な行動	1	1		地域医療連携センター・メディカルサポートセンターについて	地域医療連携センター・メディカルサポートセンター看護部長	看護キャリア支援室	68	60
	組織における役割/心構えの理解と適切な行動	1	2		セルフマネジメントについて	精神看護専門看護師 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	60
	第1回新採用者フォローアップ研修	1	2		第1回新採用者フォローアップ研修	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	60

令和4年度 看護部継続教育一覧

研修会名		研修 日数	研修 回数	開催日	テーマ/ねらい	講師、担当者	運営担当	院内参加者数（名）	時間（分）
新人看護職員	電子カルテ操作研修②	1	1	4月20日 4月21日 4月22日	安全で確かな看護技術を提供するための電子カルテ基本操作を学ぶ	安全管理部 医療情報部 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	68	90
	新採用者フォローアップ研修②	3	3	6月6日 6月14日 6月29日	・同期の仲間に成功体験を話することができる ・同期の仲間と交流することで、緊張・ストレスを緩和することができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	65	60
	患者の状態観察と報告	3	6	6月10日 6月17日 6月27日	・患者の状態に合わせた観察と報告ができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	59	90
	インスリン療法中の患者対応	7	16	7月6日 7月11日 7月13日 7月15日 7月20日 7月27日 8月16日	・インスリン療法や低血糖のリスクを理解し、低血糖時の対応ができる	糖尿病看護認定看護師 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	60	65
	翼状針評価	6	17	8月3日 8月5日 8月9日 8月10日 8月12日 8月17日	・静脈注射を安全に実施するための知識・技術・態度を習得する	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	57	60
	褥瘡対策	3	3	9月9日 9月16日 9月30日	・褥瘡対策の実際を理解し、基礎的褥瘡予防・対策の知識・技術を習得する	看護キャリア支援室 褥瘡管理 褥瘡管理院内認定看護師 特定看護師：創傷管理関連他、 皮膚・排泄ケア認定看護師	看護キャリア支援室	65	60
	膀胱留置カテーテル挿入と管理評価	4	16	11月16日 11月18日 11月29日 11月30日	・男性膀胱内留置カテーテルの挿入と管理を安全に実施できる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	57	30
	留置針評価	4	16	2月16日 2月27日 3月2日 3月3日	・静脈注射（留置針）を安全に実施できる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	58	45
ラダーⅠレベル	2年目看護師育成研修① ～急変前に気づく力を高めよう～	2	2	5月9日 5月23日	・バイタルサインから患者状態を解釈できる ・患者状態をアセスメントし、必要なケアや優先度を考えることができる	看護キャリア支援室 集中ケア看護認定看護師	看護キャリア支援室	30	90
	2年目看護師育成研修② ～看護観を深めよう～ セルフマネジメント研修	2	2	7月12日 7月26日	・自分の看護観を表現できる ・自分の看護観に対して意味づけができる ・自己の看護を発展させる行動を述べるができる ・自己に合ったセルフケアの方法を考えることができる	看護キャリア支援室 精神看護専門看護師	看護キャリア支援室	28	75
	2年目看護師育成研修③ ～患者さんが住み慣れた生活の場で 暮らせるよう、地域で看護をつなぐために 私たちができることを考えよう～	2	2	10月7日 10月14日	・地域包括ケアシステムにおける当院の役割が理解でき、患者の思いを地域 につなぐ大切さがわかる ・入退院支援は、患者が住み慣れた生活の場で暮らすための日々の看護 であることが理解できる ・事例を通して、患者の入院前、退院後の生活がイメージでき、入退院支援を 考えることができる ・明日から実践する入退院支援について考えることができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	29	75
	2年目看護師育成研修④ ～自立した看護師に求められる能力を 理解し、役割を担う準備をしよう～	2	4	12月9日 12月14日	・ラダーⅡで求められる能力、役割が理解できる ・自己の社会人基礎力を高めることができる ・求められる役割を果たすための行動計画を示すことができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	30	75
ラダーⅡレベル	3年目対象セルフマネジメント研修	2	4	9月13日 9月27日	・自己にあったセルフケアの方法を考えることができる	精神看護専門看護師 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	61	45
	臨地実習指導者育成研修①	オンデマンド配信 3/31～5/5			・コロナ禍における臨地実習の位置づけ ・看護基礎教育における臨地実習の位置づけ ・臨地実習指導者の役割	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	32	68
	指導者育成研修①: 新人看護職員研修制度・教育体制・院内 ルール・人材育成の考え方	オンデマンド配信 3/30～5/13			・新人看護職員研修の目的を理解し、教育的な関わり方について考えることが できる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	66	45
	指導者育成研修②: メンタルヘルスケア	1	1	5月20日	・新人看護師が経験しやすいストレスと精神的支援および指導者が経験しやすい ストレスとセルフケアを学ぶ	精神看護専門看護師 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	43	60
	指導者育成研修③: ティーチング・コーチング	2	2	6月23日 6月30日	・指導者としての基本的な姿勢（態度）を実践できる ・ティーチングとコーチングの使い分けが説明できる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	40	90
	臨地実習指導者育成研修②	1	1	7月8日	・実習指導を意図的・計画的に実践する必要性が理解できる ・学生が主体的に学ぶための指導方法を説明できる ・臨地実習指導者としての目標設定ができる	看護キャリア支援室 長崎大学保健学科教員	看護キャリア支援室	22	180
	中心静脈カテーテル管理研修	1	1	8月30日	・中心静脈カテーテルの管理を安全に行うことができる	安全管理部 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	22	90
	中堅看護師ブラッシュアップ研修①	1	1	9月21日	・自分の足跡（キャリア）を見つめ、“もっと”いきいきと働くために、 これからのキャリアを考えることができる。	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	12	60
	指導者育成研修④: フィードバックの基本	1	1	10月24日	・新人看護師に対するフィードバックの基本がわかる ・指導する意味、教育の大切さを知る	医療教育開発センター 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	27	190
	ドレーン管理研修	1	1	11月28日	・ドレーン管理について安全の視点から考えることができる	安全管理部 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	18	90
ラダーⅢレベル	臨地実習指導者研修③	1	1	1月13日	・臨地実習指導を振り返り、課題について解決策を述べることができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	12	75
	中堅看護師ブラッシュアップ研修②	1	1	1月30日	・自分の足跡（キャリア）を見つめ、“もっと”いきいきと働くために、 これからのキャリアを考えることができる。	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	11	60
ラダーⅢレベル	セルフマネジメント研修	1	1	10月11日	・メンタルヘルスの不調を予防するための基礎的な知識を得ることができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	4	60

令和4年度 看護部継続教育一覧

研修会名		研修 日数	研修 回数	開催日	テーマ/ねらい	講師、担当者	運営担当	院内参加者数（名）	時間（分）
ラ ダ ー Ⅰ ・ ラ ダ ー Ⅳ ・ マ ネ ジ メ ン ト ・ フ ラ グ ・ レ ベ	看護研究研修① 研究倫理・看護研究支援	1	1	5月24日	・研究倫理が説明できる ・看護研究を行うための当院のルール（要件、倫理審査等）が説明できる ・看護研究支援が説明できる	教育担当副看護部長	看護キャリア支援室	19	60
	看護研究研修② リサーチクエスション	1	1	7月25日	・リサーチクエスションを考えることができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	10	60
	看護研究研修③ 文献検索	1	1	9月12日	・データベースを使って文献検索ができる ・文献の入手方法が理解できる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	12	60
	エンドオブライフケア	1	1	9月26日	・看取り期にある患者・家族の尊敬及び人権を尊重した看護を理解できる	看護キャリア支援室 緩和ケア認知看護師	看護キャリア支援室	9	75
	看護研究研修④ 文献の見方	1	1	11月8日	・文献の違いがわかり、看護研究での活用方法がわかる ・文献のクリティークができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	17	60
	看護研究研修⑤ 研究の進め方	1	1	12月9日	・研究開始までの流れ（研究準備、研究計画書作成等、倫理申請・審査）がわかる	臨床研究センター 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	49	60
昇 任 者 研 修	看護研究研修⑥ 抄録の書き方	2	1	2月1日	・看護研究の基礎的手法を習得し、臨床での看護研究に役立てる	臨床研究センター 看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	15	60
	昇任者研修1日目	2	1	3月9日	・看護師長の業務実践が理解できる ・副看護師長として看護師長の補佐及び代行業務に必要な業務実践が理解できる ・副看護師長の役割を理解でき、心構えができる	看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	12	420
	昇任者研修2日目（看護師長向け）			看護キャリア支援室			5	360	
	昇任者研修2日目（副看護師長向け）			看護キャリア支援室			8	330	
復 帰 支 援 ス ク ル ①	最近の看護の動向	2	1	6月7日	不安を解消し、安心して職場に復帰できる	看護部長	看護キャリア支援室	1	30
	医療安全と最近の インシデント傾向	2	1			安全管理部看護師長	看護キャリア支援室	1	30
	感染対策の最新情報	2	1			感染制御教育センター看護師長	看護キャリア支援室	1	30
	カムバックナースミーティング	2	1			看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	1	30
	電子カルテシステム研修患者参画型看護計画立案（基礎編）	2	1			看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	0	0
	看護技術・採血	2	1			看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	0	0
	看護技術・翼状針、留置針	2	1				看護キャリア支援室	0	0
	看護技術・ME機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ）	2	1				看護キャリア支援室	0	0
	看護技術・吸引	2	1				看護キャリア支援室	0	0
	看護技術・膀胱内留置カテーテル	2	1				看護キャリア支援室	0	0
	看護技術・BLS	2	1				看護キャリア支援室	0	0
復 帰 支 援 ス ク ル ③	最近の看護の動向	2	1	12月6日 12月7日	不安を解消し、安心して職場に復帰できる	看護部 看護部長	看護キャリア支援室	3	30
	医療安全と最近の インシデント傾向	2	1			安全管理部看護師長	看護キャリア支援室	3	30
	感染対策の最新情報	2	1			感染制御教育センター看護師	看護キャリア支援室	3	30
	カムバックナースミーティング	2	1			看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	2	30
	電子カルテシステム研修患者参画型看護計画立案（基礎編）	2	1			医療情報部副看護師長	看護キャリア支援室	6	120
	看護技術・採血	2	1			看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	7	40
	看護技術・翼状針、留置針	2	1				看護キャリア支援室	7	40
	看護技術・ME機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ）	2	1				看護キャリア支援室	7	30
	看護技術・吸引	2	1				看護キャリア支援室	6	40
	看護技術・膀胱内留置カテーテル	2	1				看護キャリア支援室	6	40
	看護技術・BLS	2	1				看護キャリア支援室	4	45
復 帰 支 援 ス ク ル ④	最近の看護の動向	2			不安を解消し、安心して職場に復帰できる	看護部 看護部長	看護キャリア支援室	5	30
	医療安全と最近の インシデント傾向	2				安全管理部看護師長	看護キャリア支援室	5	30
	感染対策の最新情報	2				感染制御教育センター看護師長	看護キャリア支援室	5	30
	カムバックナースミーティング	2				看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	5	30
	電子カルテシステム研修患者参画型看護計画立案（基礎編）	2				看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	3	120
	看護技術・採血	2				看護キャリア支援室	看護キャリア支援室	4	40
	看護技術・翼状針、留置針	2					看護キャリア支援室	4	40
	看護技術・ME機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ）	2					看護キャリア支援室	4	30
	看護技術・吸引	2					看護キャリア支援室	5	40
	看護技術・膀胱内留置カテーテル	2					看護キャリア支援室	5	40
	看護技術・BLS	2					看護キャリア支援室	5	45

令和4年度 看護補助者研修会

研修会名	内容	日程	対象者	参加者
看護補助者任意研修会	口腔ケア、義歯洗浄（演習含む）	2022年10月11日 13：30～14：30	看護補助者希望者	22名
看護補助者基礎研修会	医療体制の概要及び病院の機能と組織の理解	2022年12月1日（木） 13：00～14：30	2022年度入職者を除く 看護補助者全員 （必須研修）	計54名
	医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務の理解			
	看護補助業務を遂行するための基礎的な知識・技術	2023年1月10日（火） 13：00～14：30		
	日常生活にかかわる業務			
	守秘義務、個人情報保護の基礎知識	＊両日とも同じ内容		
	看護補助業務における感染防止策			
	医療安全の基礎知識			
安全な移乗方法について				
看護補助者任意研修会	ハラスメント防止	2023年1月25日（水） 13：00～14：00	看護補助者希望者	18名
夜間看護補助者 オリエンテーション	看護補助業務を遂行するための医療安全に関すること	2023年2月1日（水） 16：00～23：00	夜間看護補助者	25名
	看護補助業務を遂行するための感染防止に関すること			
	守秘義務・個人情報保護の基礎知識			
	看護補助業務を遂行するための基本的な知識・技術			
	勤務管理 他			
	感染防止の演習（手指消毒、手袋・エプロンの着脱）	2023年2月2日（金） 16：00～17：00	夜間看護補助者	24名 （1名欠席）
看護補助者任意研修会	食事介助（演習含む）	2023年2月2日（木） 13：30～14：30	看護補助者希望者	16名
夜間看護補助者 患者移送研修会	歩行付き添い、車椅子移送、ストレッチャー移送（演習含む）	2023年3月10日（金） 16：00～17：00 2023年3月13日（月） 16：00～17：00 ＊両日とも同じ内容	夜間看護補助者	計24名 （1名退職）

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 中尾 一彦	
管理担当者氏名	放射線部長 東家 亮 感染制御教育センター長 泉川 公一 総務課長 池野 静香 医事課長 原 善達 薬剤部長 大山 要 ME機器センター長 原 哲也 人事企画課長 吉岡 裕敏 医療支援課長 黒田 恵美	

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	施錠可能な部屋にあるキャビネット内に書面にて保管。 診療録の院外への持ち出しについては、「長崎大学病院における診療録等の貸出等の運用手引き」及び、「長崎大学病院における個人を特定できる情報を含む医療情報等の外部持ち出しに関する申合せ」により原則として禁止している。 ※手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書については、電子カルテ及び紙媒体にて、診療情報管理室で管理・保管している。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	※	
		看護記録	※	
		検査所見記録	※	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	※	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	※	
		従業者数を明らかにする帳簿	人事企画課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課、医事課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	施錠可能な部屋にあるキャビネット内に書面にて保管。
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課 感染制御教育センター	施錠可能な部屋にあるキャビネット内に書面にて保管。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課 感染制御教育センター	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課 感染制御教育センター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課 感染制御教育センター	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	施錠可能な部屋にあるキャビネット内に書面にて保管。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
		管理者が有する権限に関する状況	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 本田 秀史
閲覧担当者氏名	総務課長 池野 静香
閲覧の求めに応じる場所	総務課
閲覧の手続の概要 長崎大学広報戦略本部において「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づき、 法人文書開示請求手続きを行っている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	1 件
閲 覧 者 別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
・ 指針の主な内容： ○医療安全管理に関する基本的考え方 ○医療安全管理委員会及びその他の組織に関する基本的事項 ○医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ○事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○医療事故発生時の対応に関する基本方針 ○医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 ○患者等からの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（有・無） ○ 医療安全管理委員会（月1回開催） 開催状況：年12回 ○ リスクマネージャー会議（月1回開催） 開催状況：年12回（書面会議6回） ・ 活動の主な内容： ○ 医療安全に関する対策の推進 ○ 医事紛争及び医療事故等、問題が発生した場合の調査及び分析 ○ 医療安全のための教育及び研修 ○ 医療安全のためのマニュアル作成等 ○ 医療安全に関する情報収集 ○ 医薬品医療機器等安全管理専門委員会及び医療機器安全管理専門委員会における審議内容に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： 【令和4年度 第1回医療安全研修会】 コロナ感染対策のため集合形式による開催はなし （e-ラーニング受講のみ）7/4開講 ①「接遇とメディエーション」/安全管理部 部長 栗原慎太郎先生 ②「当院のハリーコールシステムの現状」/ 国際医療センター2 本田智治 救急看護認定看護師 ③「Rapid Response System(RRS)の概要と運用」/ 災害医療支援室 高度救命救急センター 山下和範先生 【令和4年度 第2回医療安全研修会】 コロナ感染対策のため集合形式による開催はなし （e-ラーニング受講のみ）11/14開講 ①「患者誤認防止対策」/安全管理部 GRM 後田実知子看護師長 ②「手術時の医療安全対策」/安全管理部 部長 栗原慎太郎先生 ③「術前中止薬の注意点について」/安全管理部 薬剤師GRM 橋詰淳哉先生	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ 有 ☐ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 医療安全管理マニュアルの改訂
 - インシデントレポート報告システムの改良
 - 安全管理部部員等による院内巡視
 - 医療安全ポケットマニュアルの改訂
 - 安全管理部コア会議（週1回実施）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策委員会の設置、2) 職員研修の実施、3) 病院感染発生時の対応、4) 院内感染対策マニュアルの策定、5) 院内感染防止に関する患者への情報提供と説明、6) その他の病院における院内感染対策の推進 以上について明記。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 42 回
・ 活動の主な内容： (構成員) 委員長：病院長、感染制御教育センター長（院内感染管理者）、他委員数13名、計15名全員の出席をもって開催される。 (開催回数内訳) ○定例開催（毎月1回（8月は休会））11回 ○臨時開催 2回（4/20及び7/12） ○covid-19災害対策運営委員会「院内感染対策委員会・病院運営会議合同会議」29回 (検討内容) ○耐性菌の発生状況、手指衛生遵守状況、蓄尿率、公開JCTラウンド等の報告、承認を行う。 ○COVID-19への対応、他。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： 1. 令和4年度第1回院内感染対策・抗菌薬適正使用合同講習会 I. 当院感染制御教育センター助教藤田あゆみ先生 『院内における新型コロナウイルス感染症第6波のまとめと現状・今後に向けて』 II. 当院 感染症医療人育成センター 講師 井手 昇太郎先生 『感染症医療人育成センターの取り組みと抗菌薬適正使用』 2. 令和4年度第2回院内感染対策・抗菌薬適正使用合同講習会 アイオワ大学感染症科後藤道彦先生 『米国の大学病院における非常事態対応と医療疫学者の役割～抗菌薬適正使用も含めて～』	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内で検出された耐性菌、無菌検体からの微生物検出状況は毎朝の会議にて微生物検査室から報告がある。新型コロナウイルス感染症を含む伝染性疾患に関する塗抹情報や抗原検出状況はリアルタイムに報告がある。以上のうち、院内感染対策上重要な微生物が検出された場合はその都度検出された部署へ赴き、実際の感染対策を指導している。それらは記録として保存している。また、週に1回は病棟、外来、中央診療棟などを多職種からなるICTチームでラウンドし、感染対策の現状の把握とon the job trainingを実践している。 また、広域抗菌薬・抗真菌薬使用患者を土曜、休日以外の連日、ピックアップし、薬剤師を中心に医師・看護師・検査技師を交えたASTチームでカンファレンスを行い、主治医にカルテ上でのコメントを通じて抗菌薬適正使用支援（ASP）活動を行っている。なお、本活動の一環として、連日、微生物検査室からの報告を用いて血液培養ラウンドを行い、感染症診療支援、抗菌薬適正使用支援を行っている。学内システムを用いた院内全職員の健康管理を毎日行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容： 令和 4 年度 第 2 回安全管理研修会（e-ラーニングのみ） 「術前中止薬の注意点について」（講師：橋詰 淳哉 薬剤師） 実施日：令和4年11月-12月、イントラネット動画研修、受講人員： 2,493人（ 100 %）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項（購入～薬剤部内の管理） 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 患者に対する服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い 6. 病棟、中央診療部門、外来における医薬品の管理 7. 他施設（病院等、薬局等）との連携に関する事項 8. 輸血・血液管理担当部門と責任者の設置等 9. 薬剤投与のための機器使用 10. 放射性医薬品の管理 11. 臨床検査薬の管理 12. 造影剤の管理、使用 13. 血液浄化療法部門 14. 外来化学療法部門 15. 院内製剤の取り扱いについて 16. 未承認新規医薬品の使用及び医薬品医療機器等の適応外使用について 17. 当該手順書の順守状況の確認 実施状況：年 1 回順守状況のチェックを各部署で行い、その内容を医薬品安全管理責任者がすべて確認している。問題があれば改善のための指導を行う。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

【収集方法】

未承認等の医薬品の使用情報について、未承認新規医薬品に関しては担当部署である医薬品医療機器等安全管理専門委員会（以下、薬機専）で把握している。その他の適応外使用等については、薬剤部において、薬剤交付時の鑑査や入院患者に対する病棟薬剤業務において把握したものを記録している他、診療科からの申請・報告により薬機専でも把握している。

医薬品の採用時には、添付文書他、IF、文献等を収集している。添付文書等の改訂については、各メーカーのMRから連絡、DSUなどの発信について確認を行い、最新の添付文書等を入手するようにしている。

【周知方法】

未承認新規医薬品に関しては担当部署である薬機専の委員長より医療安全管理委員会において定期的に報告している。その他の未承認等に関しても、把握した件数を医療安全管理委員会へ報告している。

採用薬に関して改訂された情報の全てを、薬剤部各部署へ文書で通知を行っている。また、病棟、診療科（診療科長、医局長）、中央診療部（部長、副部長等）に対しては、緊急安全性情報、安全性速報、DSU、医薬品医療機器等安全性情報、DI news等を用いて情報発信を行っている。緊急安全性情報、安全性速報は、当該医薬品を使用している医師に電子カルテのコミュニケーション機能、面談による文書交付にて周知を図っている。

また、薬剤部イントラネットには、薬剤部より発信した医薬品の安全使用に関わる情報の記録を、全て確認できるように掲載している。院内医薬品情報検索システム（DICS）には改訂された添付文書の情報が更新されるまで、新しい添付文書のPDFファイルを掲載している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無																																																												
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 45 回																																																												
・ 研修の主な内容： ○有効性・安全性に関する事項 ○使用方法に関する事項 ○保守点検に関する事項 ○不具合が発生した場合の対応に関する事項 ○使用に関して特に法令上遵守すべき事項など																																																													
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																																																													
・ 医療機器に係る計画の策定 (☒ 有 ・ 無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <table border="0"> <tr><td>人工呼吸器</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>輸液ポンプ</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>シリンジポンプ</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>経腸栄養ポンプ</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>除細動器</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>閉鎖式保育器</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>人工心臓装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>IABP</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>経皮的補助循環装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>フットポンプ</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>体外式ペースメーカー</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>補助人工心臓駆動装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>麻酔器</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>電気手術器</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>内視鏡</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>内視鏡装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>直線加速装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>診療用放射線照射装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>放射線関連装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>CT装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>MRI装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>心電計</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>脳波計</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>超音波診断装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>AED</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>血液浄化装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>透析液作製関連装置</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>手術支援ロボットシステム</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>超音波手術器</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> <tr><td>歯科関連機器</td><td>： 外観点検、性能・機能点検など</td></tr> </table>		人工呼吸器	： 外観点検、性能・機能点検など	輸液ポンプ	： 外観点検、性能・機能点検など	シリンジポンプ	： 外観点検、性能・機能点検など	経腸栄養ポンプ	： 外観点検、性能・機能点検など	除細動器	： 外観点検、性能・機能点検など	閉鎖式保育器	： 外観点検、性能・機能点検など	人工心臓装置	： 外観点検、性能・機能点検など	IABP	： 外観点検、性能・機能点検など	経皮的補助循環装置	： 外観点検、性能・機能点検など	フットポンプ	： 外観点検、性能・機能点検など	体外式ペースメーカー	： 外観点検、性能・機能点検など	補助人工心臓駆動装置	： 外観点検、性能・機能点検など	麻酔器	： 外観点検、性能・機能点検など	電気手術器	： 外観点検、性能・機能点検など	内視鏡	： 外観点検、性能・機能点検など	内視鏡装置	： 外観点検、性能・機能点検など	直線加速装置	： 外観点検、性能・機能点検など	診療用放射線照射装置	： 外観点検、性能・機能点検など	放射線関連装置	： 外観点検、性能・機能点検など	CT装置	： 外観点検、性能・機能点検など	MRI装置	： 外観点検、性能・機能点検など	心電計	： 外観点検、性能・機能点検など	脳波計	： 外観点検、性能・機能点検など	超音波診断装置	： 外観点検、性能・機能点検など	AED	： 外観点検、性能・機能点検など	血液浄化装置	： 外観点検、性能・機能点検など	透析液作製関連装置	： 外観点検、性能・機能点検など	手術支援ロボットシステム	： 外観点検、性能・機能点検など	超音波手術器	： 外観点検、性能・機能点検など	歯科関連機器	： 外観点検、性能・機能点検など
人工呼吸器	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
輸液ポンプ	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
シリンジポンプ	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
経腸栄養ポンプ	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
除細動器	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
閉鎖式保育器	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
人工心臓装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
IABP	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
経皮的補助循環装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
フットポンプ	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
体外式ペースメーカー	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
補助人工心臓駆動装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
麻酔器	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
電気手術器	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
内視鏡	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
内視鏡装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
直線加速装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
診療用放射線照射装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
放射線関連装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
CT装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
MRI装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
心電計	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
脳波計	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
超音波診断装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
AED	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
血液浄化装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
透析液作製関連装置	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
手術支援ロボットシステム	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
超音波手術器	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
歯科関連機器	： 外観点検、性能・機能点検など																																																												
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																																													
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ・ 無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ○腎臓内科での薬剤投与を目的とした未承認医療機器であるクロノポンプの使用 ○消化器内科での膵石症に対する内視鏡的水圧衝撃波破碎術を目的としたEHL オートリス TOUCHの適応外等使用（効能効果違い）																																																													

○整形外科及び高度救命救急センターでの骨折部の仮固定、該当部位用インプラントによる固定の補強を目的としたVariable Angle Locking Hand System, Variable Angle LCP Forefoot /Midfoot System, LCP Low Bend Medial Distal Tibia Plate 3.5mm, LCP Adaption Plate 2.7mm, LCP T-plate 3.5mm, LCP Distal Femoral Plateの適応外等使用（効能効果違い）

・ その他の改善のための方策の主な内容：

○日本医療機能評価機構やPMDA、製造販売企業などからの情報を収集し、医療安全管理委員会や安全管理部、リスクマネージャー会議へ報告すると共に、RMニュースとして各リスクマネージャーへメールで配信し、リスクマネージャーから所属スタッフへ周知を行っている。

○機器の取扱説明書や添付文書を院内どこからでも閲覧可能なシステムを構築している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・責任者の資格(医師、歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 安全担当の副院長は、医療安全管理責任者として、医療安全管理部門である安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を管理し、病院長のもと医療安全に資する対策の指示と確認を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(13名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ① 医薬品情報資料の収集、整理、保管及び情報の加工と専門的評価 1) インターネットを利用した情報収集 2) 学術雑誌等よりの情報収集 3) 製薬会社の医薬情報担当者(MR; medical representatives)よりの情報収集 4) 病棟薬剤師業務担当者・薬剤管理指導業務担当者による情報収集 5) 資料の整理・保管・管理 6) 書籍・雑誌等の購入 7) 添付文書改訂等に対応したオーダーマスタ更新 8) 院内副作用情報(PMDA 報告)の重篤度およびリスクの評価 ② 医薬品に関する情報の伝達 1) 医薬品集の作製、改訂 2) 全診療科・病棟・中央診療部への定期的な情報伝達 3) 病棟薬剤師業務担当者・薬剤管理指導業務担当者への情報提供 4) 病棟薬剤師業務担当者・薬剤管理指導業務担当者との情報共有 5) 他の病院薬局への情報提供 6) 院内副作用情報(PMDA 報告)の伝達(医療安全管理委員会ならびに診療科長等会議) ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認新規医薬品に関しては、医薬品安全管理責任者が委員長を務める医薬品医療機器等安全管理専門委員会(以下、薬機専)において、未承認新規医薬品等評価委員会の意見を参考に申出の受付と使用の可否等を決定する業務を担当している。 その他の未承認等の医薬品の使用状況については薬剤部による使用状況の把握と必要に応じた	

提案等の業務を行わせている他、薬機専でも把握している。

・ 担当者の指名の有無 (有・無)

・ 担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部、職種 薬剤部長)

(所属：麻酔科、職種 教授)

(所属：安全管理部、職種 安全管理部長)

(所属：内分泌代謝内科、職種 教授)

(所属：循環器内科、職種 教授)

(所属：移植消化器外科、職種 教授)

(所属：皮膚科、職種 教授)

(所属：歯科麻酔科、職種 教授)

(所属：感染制御教育センター、職種 教授)

(所属：小児科、職種 教授)

(所属：看護部、職種 看護部長)

(所属：事務部、職種 事務部長)

(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長)

(所属：ME 機器センター、職種 副センター長)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有・無)

・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)

・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

説明に関する責任者は、診療情報管理室長が担当し、説明に関するガイドラインを作成し、診療録管理を担当する委員会である診療録管理委員会にて、診療録の質的監査で説明と同意に関する監査項目を確認し、診療部門へフィードバックしている。また、説明・同意において、医師以外の職種の同席基準を定め、説明内容の記載についても説明に関するガイドラインに沿った形でインフォームド・コンセント記録テンプレートを作成し運用している。結果を該当診療科へ通知・指導している。

指導内容について、診療録管理委員会および診療科長等会議で報告している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

(有・無)

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

○ 診療録及び退院時要約の記載内容について質的監査及び報告。結果を該当診療科へ通知・指導している。

指導内容について、診療録管理委員会および診療科長等会議で報告している。

○ 規程に基づき診療録の管理し、結果を診療録管理委員会で報告している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（５）名、専任（１）名、兼任（１２）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（４）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（３）名 うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（２）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ○医療安全管理マニュアルの改訂 ○安全管理部部員等による院内巡視 ○インシデントレポートの分析 ○死亡事例の把握・検証 ○安全管理部コア会議（週１回実施） ○医療安全研修会について、e-ラーニングにおいてテストを実施し、点数によって評価している。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（４件）、及び許可件数（４件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無） ・ 活動の主な内容： ○高難度新規医療技術評価委員会での審議結果を元に当該医療技術実施の可否について判定する。 ○有害事象が発生したときの当該医療技術の変更、中止、その他当該医療技術に関し必要な事項を決定する。 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 95 件）、及び許可件数（ 93 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 未承認新規医薬品等を用いた医療、適応外等使用を伴う医療を提供する場合の使用条件、院内製剤を用いた医療を提供する場合の使用条件、使用の適否等の審議
 - 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の改訂
 - 医薬品医療機器等の安全使用のため必要となる情報の収集
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 300 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 43 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 医療安全管理マニュアルの改訂
 - 安全管理部部員等による院内巡視
 - インシデントレポートの分析
 - 死亡事例の把握・検証
 - 安全管理部コア会議（週 1 回実施）

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（☒有）（病院名：大阪大学医学部附属病院）・無）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有）（病院名：奈良県立医科大学附属病院）・無）
- ・ 技術的助言の実施状況

新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、訪問調査は取りやめとなり、被訪問大学から提出された自己チェックシートの内容を紙面調査という形で実施し、特に改善を求めるような指摘事項はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況

総合患者支援部に患者相談室を設置し、患者家族等からの医学的な質問、医療安全に係る相談等、様々な相談を患者相談窓口にて一元的に対応し、必要に応じて、助言、情報提供等を行いながら患者家族等を支援している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

1. 令和4年度 第1回医療安全研修会

コロナ感染対策のため集合形式による開催はなし（e-ラーニング受講のみ）7/4開講

- ①「接遇とメディエーション」/安全管理部 部長 栗原慎太郎先生
- ②「当院のハリーコールシステムの現状」/国際医療センター2 本田智治 救急看護認定看護師
- ③「Rapid Response System(RRS)の概要と運用」/
災害医療支援室 高度救命救急センター 山下和範先生

2. 令和4年度 第2回医療安全研修会

コロナ感染対策のため集合形式による開催はなし（e-ラーニング受講のみ）11/14開講

- ①「患者誤認防止対策」/安全管理部 GRM 後田実知子看護師長
- ②「手術時の医療安全対策」/安全管理部 部長 栗原慎太郎先生
- ③「術前中止薬の注意点について」/安全管理部 薬剤師 GRM 橋詰淳哉先生

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、全員が公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する 2022 年度特定機能病院管理者研修を受講した。

○受講日

管理者（中尾 一彦）：2023 年 2 月 2 日

医療安全管理責任者（江口 晋）：2023 年 2 月 2 日

医薬品安全管理責任者（大山 要）：2022 年 12 月 23 日

医療機器安全管理責任者（栗原 慎太郎）2022 年 11 月 11 日

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構、「病院機能評価：一般病院 3」2023 年 9 月 認定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

審査結果報告書を病院ホームページに掲載している。

・評価を踏まえ講じた措置

以下の取り組みを継続的に実施し改善に努めている。

○IC にかかる説明・同意文書への記載基準の統一化

○医療の質向上委員会の定期開催

○入院診療計画書の様式変更と多職種による記載の徹底

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 【長崎大学病院長選考規程より抜粋】 第3条 病院長となることのできる者は、次の各号のいずれにも該当する。 (1) 医療法(昭和23年法律第205号)第10条第2項に基づき主として医業を行う病院を管理することができる者 (2) 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有する者 (3) 組織管理能力等の長崎大学病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページにて公表している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ 有 ・ 無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページにて公表している。				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
永安 武	長崎大学理事	○	長崎大学長が指名する理事	有 ・ ☒ 無
福永 博俊	長崎大学理事		長崎大学長が指名する理事	有 ・ ☒ 無
池松 和哉	長崎大学医学部長		役職指定	有 ・ ☒ 無
村田 比呂司	長崎大学歯学部部長		役職指定	有 ・ ☒ 無
迎 寛	長崎大学病院副病院長		長崎大学病院運営会議選出委員	有 ・ ☒ 無
森崎 正幸	長崎県医師会長		学外有識者	有 ・ ☒ 無
渋谷 昌史	長崎県歯科医師会長		学外有識者	有 ・ ☒ 無
寺原 朋裕	長崎県福祉保健部長		学外有識者	有 ・ ☒ 無
西田 孝洋	長崎大学薬学部部長		長崎大学長が必要と認めた者	有 ・ ☒ 無
澤井 照光	長崎大学医学部保健学科長		長崎大学長が必要と認めた者	有 ・ ☒ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有・無	
・合議体の主要な審議内容 【長崎大学病院運営会議規程より抜粋】 第2条 運営会議は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 経営・運営方針に関すること。 (2) 中期目標・中期計画に関すること。 (3) 教育・研究活動に関すること。 (4) 規程等の制定及び改廃に関すること。 (5) 教育研究組織に関する事項 (6) 予算及び決算に関する事項 (7) 教員の採用及び昇任に関する事項 (8) 教員の再任に関する事項 (9) その他病院の管理運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 院内ホームページ（イントラネット）に、病院運営会議の議事要旨を掲載している。 また、診療科長等会議で病院運営会議の概要報告を行うとともに、事務部においては、課内連絡会で議題内容の報告をするなどして情報共有を行っている。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・公表の方法 大学ホームページにて公表している。 ・外部有識者からの意見聴取の有無（☒有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
中尾 一彦	○	医師	病院長
前村 浩二		医師	執行役員
尾崎 誠		医師	副病院長「総務」
江口 晋		医師	副病院長「安全」
西野 友哉		医師	副病院長「診療」
辻野 彰		医師	副病院長「経営」
迎 寛		医師	副病院長「人事」
鵜飼 孝		歯科医師	副病院長「歯科統括」

小渕 美樹子		看護師	副病院長「看護統括」
本田 秀史		事務職員	副病院長「事務統括」
浜田 久之		医師	病院長補佐「教育・広報」
山本 弘史		薬剤師	病院長補佐「研究」
泉川 公一		医師	病院長補佐「国際」
栗原 慎太郎		医師	病院長補佐「安全」
池田 聡司		医師	病院長補佐「施設」
山下 利佳		歯科医師	病院長補佐「福利厚生」
松本 武浩		医師	病院長補佐「医療情報」
田浦 直太		医師	病院長補佐「総合患者支援」
田崎 修		医師	高度救命救急センター長
大山 要		薬剤師	薬剤部長
福田 徹		診療放射線技師	医療技術部長
永岡 亜也子		外部有識者	病院顧問（弁護士法人ふくざき法律事務所）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（**有**・無）
- ・ 公表の方法
大学ホームページにて公表している。

- ・ 規程の主な内容

【長崎大学病院規則より抜粋】

（病院長）

第3条 本院に、病院長を置く。

2 病院長は、病院の管理運営をつかさどり、所属職員を統括する。

【長崎大学会計規則より抜粋】

（予算責任者）

第10条 予算管理単位に予算責任者を置き、部局長をもって充てる。

なお、人事権について、「副病院長等の選考に関する申合せ」により、各種メディカルスタッフの選考基準が定められており、病院長が指名することとなっているが、一部、医学部で選考された講座の教授を診療科長とするなど「充て職」が存在するため、医学部と調整を行い、対応を検討する予定である。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

病院長の職務を補佐する者として副病院長を、病院長の職務のうち特定事項の職務を補佐する者として病院長補佐を置いているほか、病院長の諮問に応じ意見を具申する役割として、病院顧問を置いている。また、本院の管理運営に関し、病院長に助言等を行う者として病院長特別補佐を置くことができることとしている。
さらに、病院長の諮問機関として、運営戦略部及び外部有識者（経営戦略アドバイザー）を含む経営戦略部を設置し、多職種からなるメンバーで会議を行い、企画立案を行っている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

（人事）

副病院長の選考は、各診療部門の診療部門長、各診療科の診療科長、各治療室の治療室長、中央診療施設の各部長（各センター長、機構長及び各室長を含む。）、薬剤部長、看護部長及び事務部長のうちから病院長が推薦し学長が選考するもの、病院長補佐の選考は、各診療部門の診療部門長、各診療科の診療科長、各治療室の治療室長、中央診療施設の各部長（各センター長、機構長及び各室長を含む。）及び薬剤部長のうちから病院長が指名するものとしている。

（研修）

全国病院長会議等が主催する分野別、職階別の各種研修会に執行部職員を積極的に参加させている。また、日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修にも毎年対象者を参加させている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 【長崎大学病院規則より抜粋】 第 2 条 委員会は、次に掲げる業務を行う。 (1) 医療安全管理に関する責任者、医薬品安全管理に関する責任者、医療機器安全管理に関する責任者、安全管理部及び医療安全管理委員会が行う業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。 (2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。 (3) 第 1 号及び第 2 号に掲げる事項について、その結果を公表すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法： 病院ホームページにて公表している。					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
吉村 麻里子	佐賀大学医学部附属病院 医療安全管理室 特任教授	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・無	1
川添 志	山下・川添総合法律事務所 弁護士		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・無	1

飯田 由紀子			医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有 ☒ 無	2
--------	--	--	------------------------------	--------------------------------------	---

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 ・体制の整備状況及び活動内容 学外の弁護士に病院顧問を委嘱し、必要に応じて、本院運営に係る法的な助言を得ている。また、病院運営会議（原則毎週開催）に学長指名の副学長及び学外者（弁護士）が構成員として出席している。さらに、役員会や経営協議会（外部委員を含む）において、病院の決算状況等の審議がなされており、毎年監事監査を受審している。 ・専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・公表の方法 大学ホームページにて公表している。
--

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況 ・病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会及び経営協議会で病院決算状況等について審議を行っていること、病院運営会議（原則毎週開催）に学長指名の副学長が構成員として出席していること、並びに、毎年、監事監査を受審していることから、業務の監督体制は整備されている。 ・会議体の実施状況 （令和4年度）：役員会 年18回 経営協議会 年9回（うち書面会議3回） 病院運営会議 年28回 ・会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ） （令和4年度）：経営協議会 年8回（うち書面会議3回）、病院運営会議 年28回 ・会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ・ ☒ 無 ） （令和4年度）：役員会 ・会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・公表の方法 大学ホームページにて公表している。
--

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年 0 件)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
 - 院内 HP (イントラネット) に掲載している。
 - 院内講習会にて周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 地域住民や患者さんの医療機関の選択に資するため、病院ホームページで各診療科の特徴や対象とする疾患について情報提供している。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○ 複数診療科の医師及び多職種の医療スタッフを構成員としたチーム（精神科リエゾンチーム、栄養サポートチーム、認知症ケアチーム、呼吸ケアチーム、外来緩和ケアチーム、糖尿病ケアサポートチーム、透析予防診療チーム、排尿ケアチーム等）を設置し、チーム医療を実践している。 ○ 口腔管理センターを設置し、術後の周術期口腔ケアだけでなく、保存・補綴も含め、必要な歯科治療すべてを扱い、医科歯科連携医療を推進している。	